

1. 調査概要

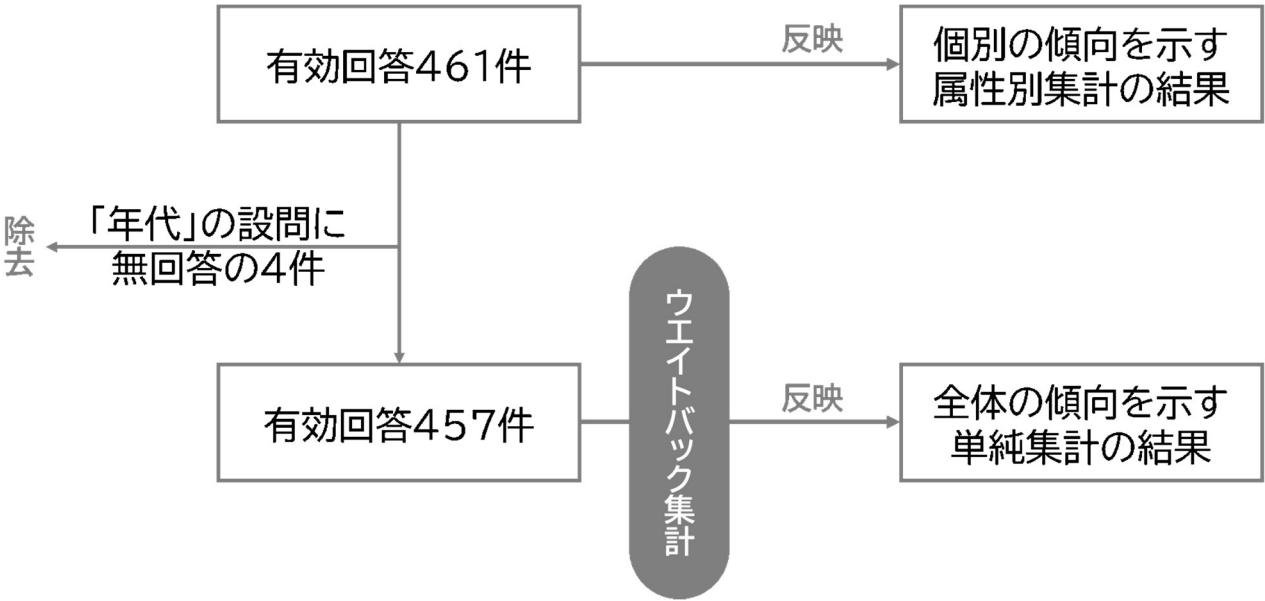
項 目	内 容
調 査 目 的	・ 現計画で実施してきた各種施策に関して重要度、満足度を把握し分析することにより次期策定に反映させる。 ・ 雇用・働く環境、結婚・出産・子育て、将来のまちづくりに関する意向及び津久見市への施策要望の把握 ・ 【次期計画・戦略、人口推計に活用】 ・ 出生希望の把握【目標人口設定に活用】
調 査 期 間	令和7年3月19日～4月12日
調 査 方 法	郵送配布・郵送又はWebにて回収
調 査 対 象	18歳以上の市民 1,500人 を無作為抽出（2024年10月時点 18歳以上人口 12,884人）
有 効 回 収 数	461件（郵送回収320件・Web回収141件）（回収率30.7%） → 信頼レベル95%・許容誤差±5.16%

2. 集計方法

本アンケート調査では、「ウエイトバック集計」という方法によって集計を行った。これは、年代ごとにアンケートの回収数なるべく同じにしたうえで、年代別の回収比率が人口構成比と同じになるように結果を補正して集計する方法である。補正前の結果から、年代ごとの傾向を高い信頼度で把握でき、さらに補正後の結果から、人口構成比に基づいた全体の傾向を示すことが可能になる。

この「ウエイトバック集計」を行うためには、すべての有効回答が「年代」の設問に回答している必要があるが、有効回収461件のうち、4件が「年代」の設問に対して無回答であったため、以下、基本的にこの4件を除いた457件を有効回答として扱い、調査結果を示すこととする。

ただし、属性別の集計はウエイトバック集計の補正前の結果を用いるため、上記の4件を含む461件を有効回答として扱う。



3. 調査設問

① 属性		
Q1	性別	
		男性/女性/その他/回答しない
Q2	年齢	
		18～29歳/30～39歳/40～49歳/50～59歳/60～69歳/70～79歳/80歳以上
Q3	職業	
		会社員、団体職員/公務員、教員/自営業および家族従業/農林水産業/専門職・自由業/学生/アルバイト 家事専業/無職/その他
Q4	居住地	
		千怒地区/津久見地区/青江地区/下浦地区/日代地区/四浦地区/保戸島地区・無垢島地区
Q5	居住年数	
		1年未満/1年以上5年未満/5年以上10年未満/10年以上20年未満/20年以上30年未満/30年以上
Q6	通勤・通学先	
		津久見市内/佐伯市/臼杵市/大分市/その他県内/県外/就学・勤務していない
Q7	出身地	
		津久見市/他市町村
Q8	家族構成	
		単身/夫婦のみ/親子2世代世帯/親子3世代世帯/兄弟姉妹/その他

② 取り組んでいる施策について		
Q9～Q14		「基本目標 1.健やかな暮らしを支え合う思いやりのまち」の満足度、重要度
		「基本目標 2.郷土を想う心の豊かなひとを育てるまち」の満足度、重要度
		「基本目標 3.世界に誇る地域資源で活力を創造するまち」の満足度、重要度
		「基本目標 4.多様な都市活動を支える快適で潤いのあるまち」の満足度、重要度
		「基本目標 5.美しい津久見の環境を次世代へつなぐまち」の満足度、重要度
		「基本目標 6.未来の津久見を共に考え行動するまち」の満足度、重要度
Q15		施策についての意見や必要と思う取組(自由記述)

③ 雇用の確保や働きやすい環境づくり		
	Q16	津久見市内の働く場所は充実していると思うか
		とてもそう思う/そう思う/そう思わない/全くそう思わない/わからない
※Q16で「とてもそう思う」、「そう思う」の方		
	Q17	充実していると思う理由(3 つまで)
		希望する仕事内容を満たす職場が多いから/賃金水準が高いから/立地条件の良い職場が多いから
		福利厚生が充実した職場が多いから/地元産業に関連する企業が多いから
		テレワーク・リモートワーク等、多様な働き方を推奨する職場が多いから
		女性の雇用機会が充実した職場が多いから/若年層の雇用機会が充実した職場が多いから
		子育てとの両立ができる職場が多いから/介護との両立ができる職場が多いから
		高齢者の雇用機会が充実した職場が多いから/障がい者の雇用機会が充実した職場が多いから/その他
※Q16で「そう思わない」、「全くそう思わない」の方		
	Q18	充実していないと思う理由(3 つまで)
		希望する仕事内容を満たす職場が少ないから/賃金水準が低いから/立地条件の良い職場が少ないから
		福利厚生が充実した職場が少ないから/地元産業に関連する企業が少ないから
		テレワーク・リモートワーク等、多様な働き方を推奨する職場が少ないから
		女性の雇用機会が充実した職場が少ないから/若年層の雇用機会が充実した職場が少ないから
		子育てとの両立ができる職場が少ないから/介護との両立ができる職場が少ないから
		高齢者の雇用機会が充実した職場が少ないから/障がい者の雇用機会が充実した職場が少ないから
	Q19	行政が力を入れるべき取組(3 つまで)
		企業誘致による雇用拡大 /税制処置等の企業支援/産官学の連携によるビジネス機会の拡大
		市内事業所の人材育成支援/企業情報の発信・PR/就職に関する相談窓口の充実/インターンシップ等の充実
		職業能力を高められる機会の拡充/資格取得に向けた支援（講座、費用助成等）/外国人労働者の支援
		ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の啓発/テレワーク環境の整備支援/障がい者の雇用支援
		サテライトオフィス等の整備・運営・利用促進/子育て支援の充実/介護支援の充実/シニア層の再就職支援
		起業・創業支援/労働環境の改善支援

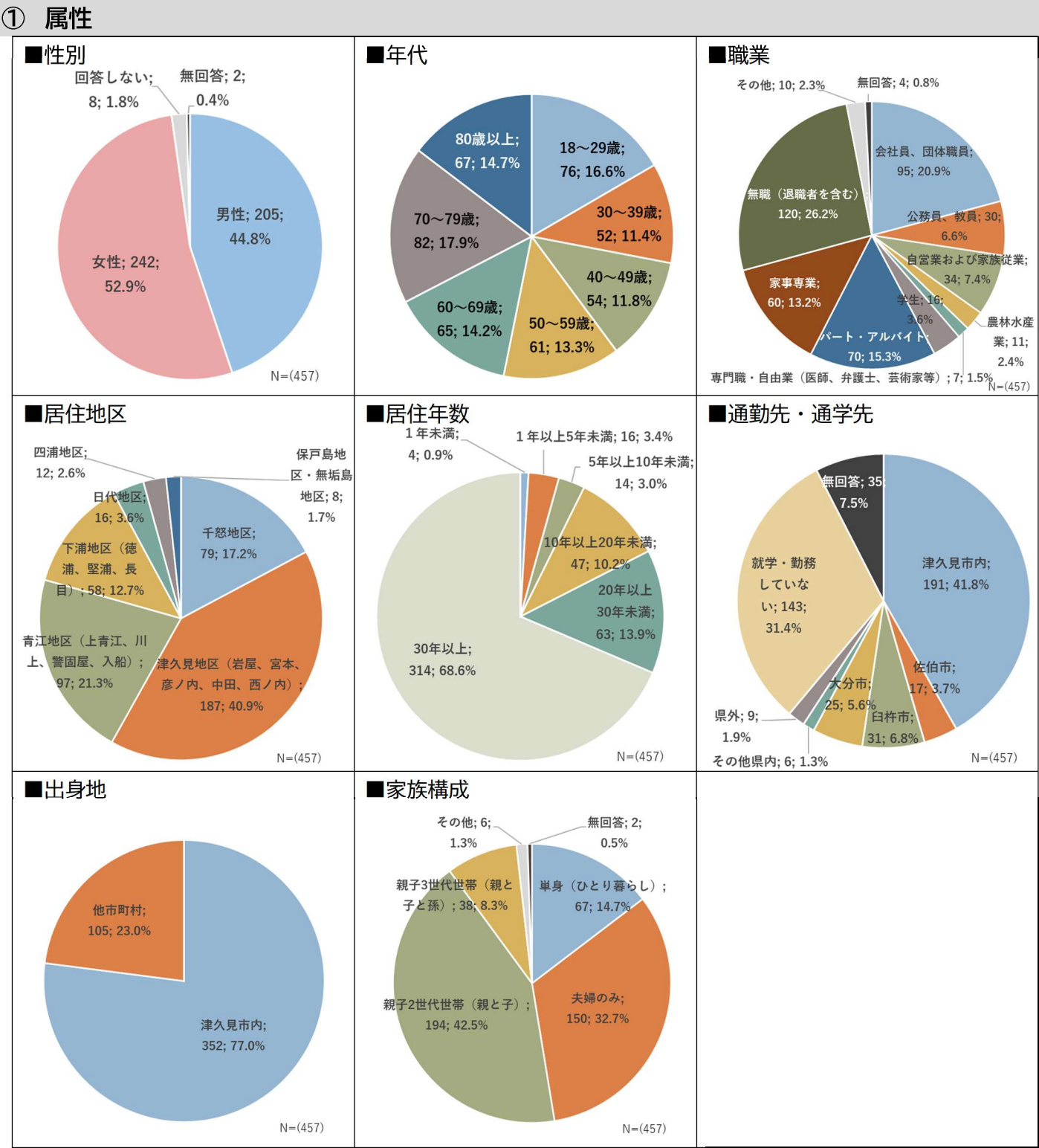
④ 結婚・子ども・子育て支援		
	Q20	結婚状況
		結婚していない（未婚）/結婚していない（離別・死別）/結婚している（事実婚や別居中の夫婦を含む）
※Q20で「結婚していない(未婚)」の方		
	Q21	結婚に対する考え方
		すぐにでも結婚したい/2～3年以内に結婚したい/いずれは結婚したい
		結婚したいと思うが、結婚しないと思う/今後、結婚するつもりはない
	Q22	結婚していない理由(いくつでも)
		結婚するにはまだ若すぎるから/結婚する必要性を感じないから/今は仕事（または学業）に打ち込みたいから
		今は、趣味や娯楽を楽しみたいから/独身の自由さや気楽さを失いたくないから/人間関係が複雑になるから
		自分に合った相手に出会っていないから/出会う機会（場）がないから/うまく付き合えないから
結婚資金（挙式や新生活の準備費用）が足りないから/結婚生活のための住居のめどが立たないから		

	Q23	結婚後の生活を送るための十分な収入が得られていないから/同性婚ができないから
		子育ての経済的負担（または精神的負担、肉体的負担）が大きい（だろう）から/健康面での不安があるから
		家族の介護等の家庭の事情により余裕がないから/親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から
		行政に求める結婚支援(3 つまで)
		出合いの場の提供（街コン・婚活イベント等）/交際にあたってのノウハウを学ぶセミナーの開催
	Q24	現実の子どもの人数
		0 人/ 1 人/ 2 人/ 3 人/ 4 人/ 5 人以上
		理想の子どもの人数
		0 人/ 1 人/ 2 人/ 3 人/ 4 人/ 5 人以上
※現実の子どもの数が理想より少ない方		
	Q26	子どもの数が理想より少ない理由(いくつでも)
		結婚していないから/子育てや教育にお金がかかるから/家が狭いから/自分の仕事に差し支えるから
		子どもがのびのび育つ環境でないから/自分やパートナーの生活を大切にしたいから
		将来の雇用（収入）に不安があるため/健康上の理由により妊娠・出産が困難だから
		パートナーが望まないから/自分またはパートナーが高齢だから/子どもはほしいができないから
		これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから
		パートナーの家事・育児への協力が得られないから/子どもが好きではない、または苦手だから
末子が自分またはパートナーの定年退職までに成人してほしいから/その他		
	Q27	子育ての利便性
		とてもそう思う/そう思う/そう思わない/全くそう思わない/わからない
	Q29	前問の理由(自由記述)
		行政が力を入れるべき子育て支援の取組(3 つまで)
		乳幼児の健康・育児相談の充実/未就学児を対象とした子育てサークルや活動拠点施設の整備
		放課後児童対策（放課後児童クラブ等）の充実/小・中学校の学力向上の取組の強化/ひとり親家庭への支援
	Q28	子どもが活動しやすい屋内レクリエーション施設の整備/子どもを連れて、安全に歩ける歩道の整備
		男性を含めた働き方の見直しと働く環境の整備/交通安全や防犯等、地域ぐるみの子どもの見守り活動
		児童虐待防止対策の充実/医療機関の充実（小児科等）/子育て世帯向けの公営住宅や賃貸住宅の整備

⑤ これからのまちづくり		
Q30	総合計画・人口ビジョン・総合戦略の認知度	
	内容まで詳しく知っている/一部の内容を知っている/名前だけ知っている/全く知らない	
Q31	行政の関心度	
	大いに関心を持っている/まあまあ関心を持っている/どちらとも言えない	
	あまり関心がない/全く関心がない	
※Q31で「あまり関心がない」、「全く関心がない」の方		
Q32	行政に関心がない理由(自由記述)	
Q33	市政情報の入手方法(3 つまで)	
	市報つくみ(広報誌)/市のホームページ/新聞/津久見市公式 LINE/津久見市公式 X(旧 Twitter)	
	津久見市公式 Facebook/津久見市公式 Instagram/インターネット上の掲載記事/FM ラジオ/その他	
Q34	目指すべき活力あるまちの姿	
	農林水産業や商工業等、産業の振興が図られているまち/住環境や働く場が充実し、若者が住みたくなるまち	
	観光地としての魅力が高まり、多くの来訪者を惹きつけるまち	
	消防・防災対策が充実した安心して暮らせるまち/人権が尊重され、誰もが自分らしく生きられるまち	
	「関係人口」と呼ばれる新しい人々が多く訪れ、市民との交流が図られているまち	
	高齢者や女性、障がい者、外国人の方等、誰もが生涯にわたり活躍できるまち	
	人工知能(AI)等の最先端技術の導入により、市民の生活の利便性と満足度が向上しているまち	
	結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえられるまち/それぞれの地域コミュニティが元気で、活力あるまち	
	医療・福祉サービスや公共交通の充実等、安心して暮らせるまち	
	SDGs の理念を踏まえた取組により、持続可能なまちづくりが実現しているまち	
	自治体間連携や民間との協働により、地域の課題が解決されるまち	
津久見市の特徴的な文化が保全され、スポーツが盛んなまち/その他		
Q35	津久見市で行うべき地方創生施策・人口減少対策	
	農漁業の振興/観光・交流の推進/他地域からの移住定住/子育て・教育環境整備/起業・創業の支援/DX の推進	
	女性の活躍推進/産業基盤の強化/災害や事故からの安全/健康寿命の延伸/文化やスポーツの振興/その他	
Q36	まちづくりの意見・アイデア(自由記述)	

4. 調査結果

※ 調査結果において、割合（構成比）を示しているものについては、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計値が 100.0 とならない場合がある。



② 津久見市が取り組んでいる施策（満足度・重要度）

(1) 現総合戦略における施策の満足度・重要度

「第5次津久見市総合計画」、2つの基本目標と31の基本方針を設定している。現行計画の各施策を評価・検証する上で参考とするため、31の基本方針に関して、「現在の満足度」と「今後の重要度」を確認した。

【回答方法】

✓ 「現在の満足度」「今後の重要度」ともに、「高い」「やや低い」「ふつう」「やや低い」「低い」の5段階に加えて、「判断できない」を加えた6つの選択肢から1つ選択

基本 目 的	基本方針 ・ 主な内容	現在の満足度						今後の重要度					
		高い	やや高い	ふつう	やや低い	低い	判断できない	高い	やや高い	ふつう	やや低い	低い	判断できない
	①基本方針名 方針の内容・具体的な取組など		4				-	5					-

【算出方法】

✓ 「わからない」「無回答」を除き、各施策の満足度指数・重要度指数を下記に示す式により算出した。

① 満足度指数＝高い（％）×100+やや高い（％）×66.7+どちらでもない（％）×50.0+やや低い（％）×33.3+低い（％）×0

② 重要度指数＝高い（％）×100+やや高い（％）×66.7+どちらでもない（％）×50.0+やや低い（％）×33.3+低い（％）×0

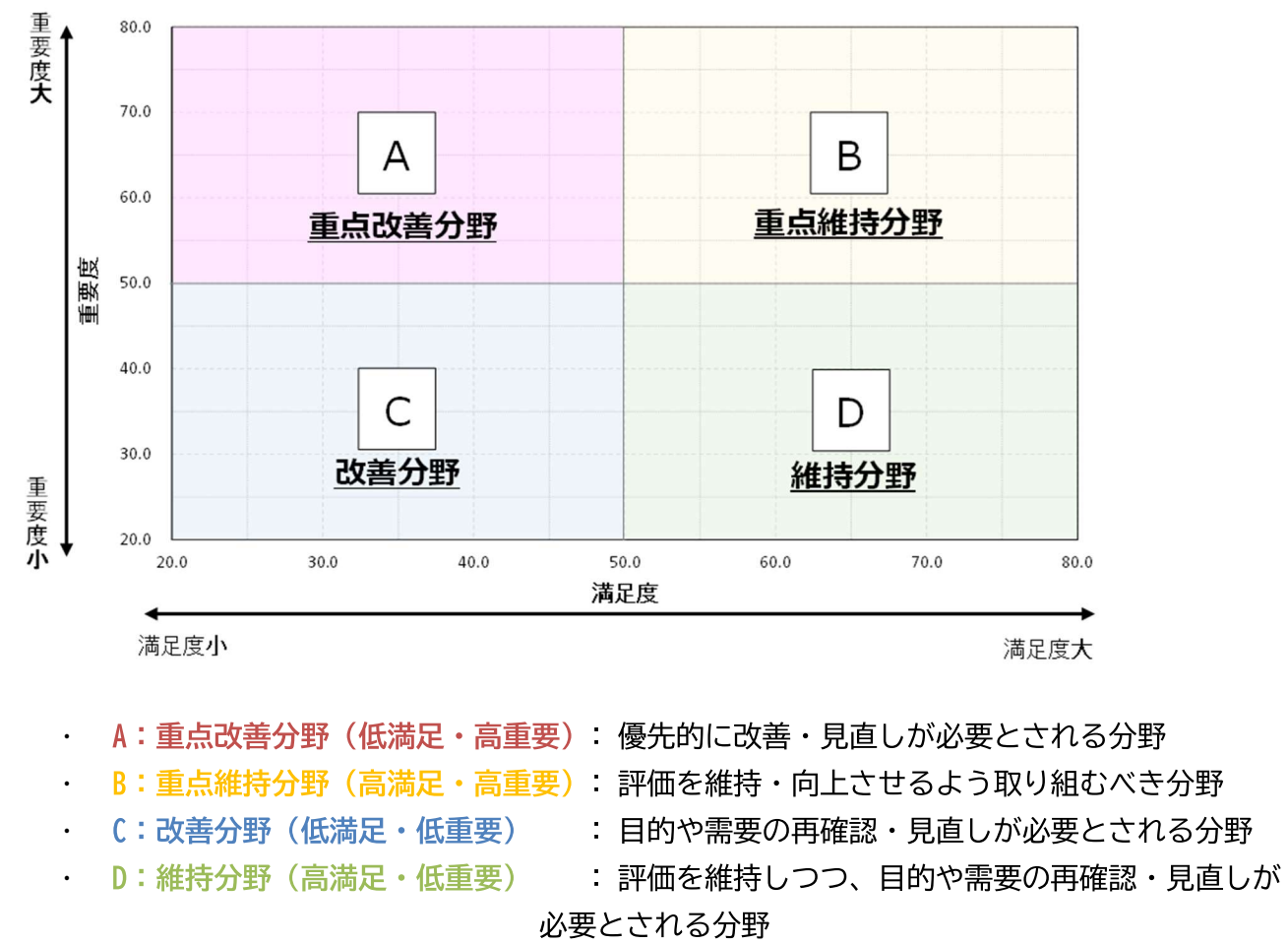
✓ ①、②の点数を用いて、各施策の偏差値を以下の式より算出した。

各施策の偏差値＝
（各施策の点数－各施策の点数の平均値）÷各施策の点数の標準偏差×10+50

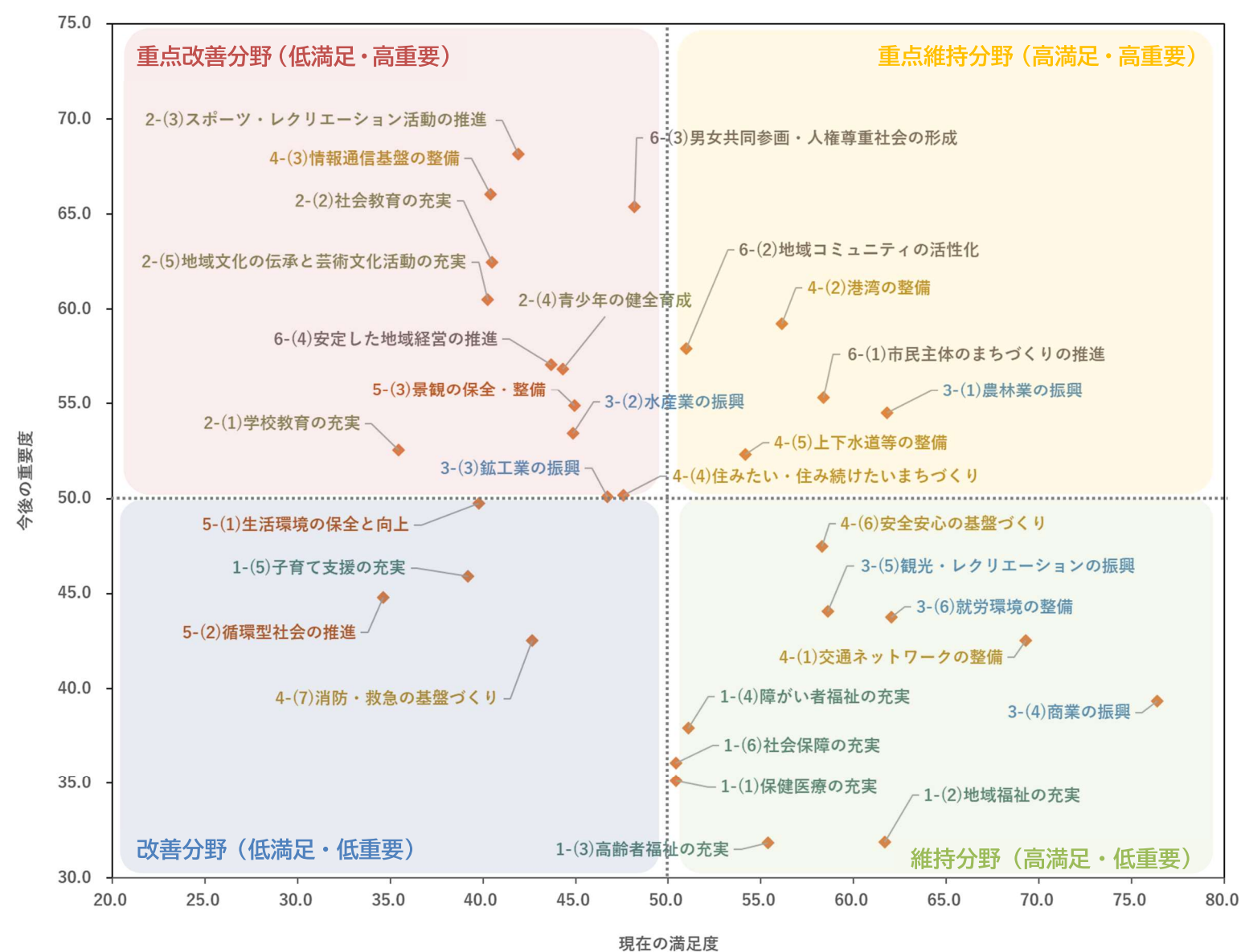
【散布図】

✓ 次に、算出した各施策の満足度・重要度の偏差値を、横軸を「現在の満足度」、縦軸を「今後の重要度」とし、散布図にプロットした。

✓ 散布図は各A～Dの4つのエリアに分けることができ、各施策がどのエリアに分布するかで、施策の評価を行うことができる。



- 重点改善分野（低満足・高重要）は12施策と最も多く、今後の重点改善分野と捉えられる。住民ニーズが高いため、ここへの施策強化やリソース配分を進めると、満足度向上・行政評価向上を得やすい可能性がある。（情報通信基盤や景観インフラ面・社会と学校教育面・文化活動の充実など）
- 重点維持分野（高満足・高重要）の5施策は、施策の周知や取り組みがうまく機能している可能性が高く、津久見市の強みとしてさらに継続・発展させることで、満足度・信頼度をより高められる。
- 改善分野（低満足・低重要）の4施策は、「重要度が低い」評価を受けているため、市民の優先意識はそれほど高くない一方、満足度も低めである。施策自体のインパクトや必要性を再確認し、周知不足や施策内容の認知が進んでいない可能性も考えられる。将来的にニーズが高まる可能性もある分野（子育て・住環境・消防救急の基盤づくりなど）については、長期的視点で計画的に整備するといった検討が必要である。
- 維持分野（高満足・低重要）の10施策は、住民にとっては「それほど重要ではない」と見られがちだが、現状についてはある程度の満足度を得ている施策群であり、現行施策自体は一定の成果が出ていると思われる。ただし、大きなリソースをさらに投入すべきかどうかは検討課題であり、他の重要施策とのバランス調整がポイントとなる。



(2) 施策についての意見・他に必要だと思う取組

(総論)

- 交通の利便性や高齢者・子育て世帯への支援、文化財保護や教育環境の充実、定住促進や企業誘致に関する声が多く寄せられた。また、少子高齢化への危機感や人口減少対策、防災、地域資源の活用、市政運営の透明性・効率化を求める意見も見受けられた。

(主な意見)

○交通関連

- 公共交通機関の本数や利便性の向上（特に半島部交通）
- 高齢者が安心して移動できる交通網の整備
- 危険な運転への対策（タクシー運転の安全管理など）

○子育て・教育環境の充実

- 若い子育て世代が住みたくくなるようなまちづくりの推進
- 子どもの習い事支援や送迎支援、市独自の応援策の実施
- 産婦人科など子育て関連施設の整備

○高齢者福祉・見守り体制

- 独居高齢者への地域見守り支援や受け入れ施設の整備
- 高齢者も含めた誰もが気軽に集える場づくり

○地域資源の活用と文化振興

- 津久見の良さを再認識する取り組み
- 市内文化財の情報発信と無形文化財の担い手養成の場の提供

○定住促進・経済基盤の強化

- 企業誘致の強化による雇用創出と定住の促進
- 定住施策への本格的な取り組みの強化

○防災・都市計画

- 地域ごとの定期的な防災訓練の実施
- 市庁舎移転に対する若年層からの財政負担への懸念
- 二中跡地など未活用公共資産の有効利用の検討

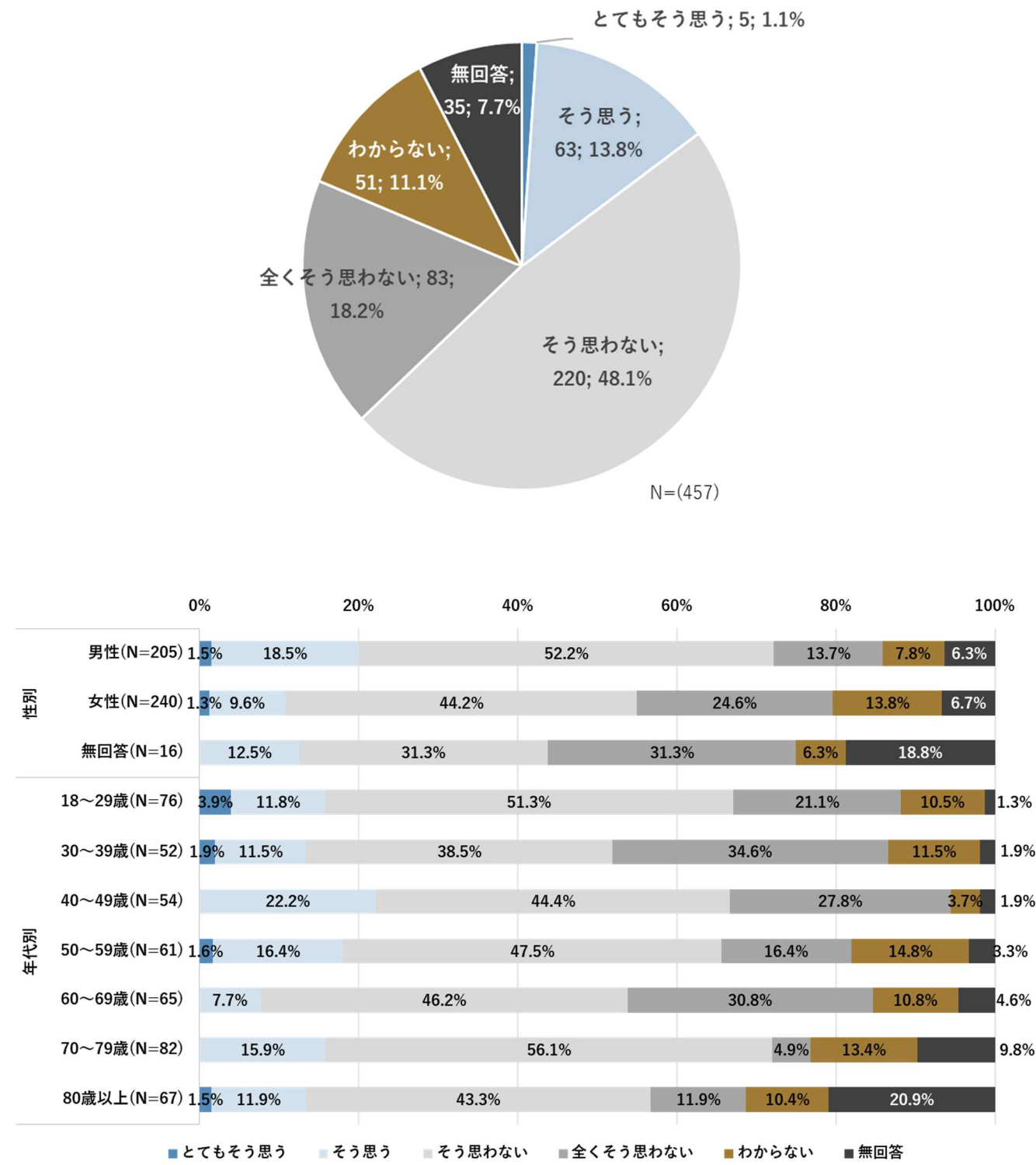
○行政運営・市民サービス

- 市職員数や議員数の見直しと効率的な市政運営
- 新市庁舎や道の駅、つくみん公園等を活用した交流の場づくり
- スマートシティ施策の重点推進

③ 津久見市における雇用の確保や働きやすい環境づくりの取組

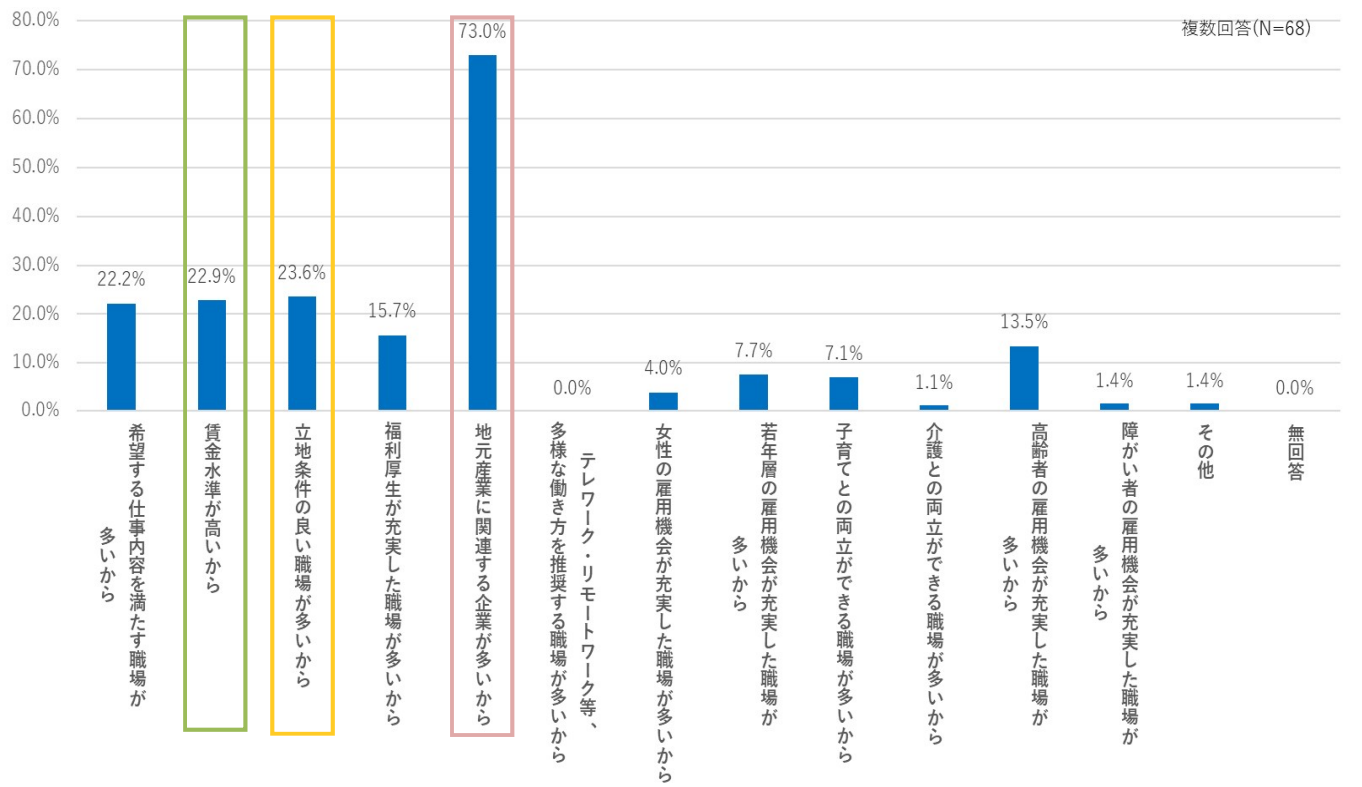
(1) 津久見市の働く場所の充実度（全体）

- 津久見市における働く場所の充実度について、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合計で14.9%であったのに対し、「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した人の割合は合わせて66.3%にのぼり、否定的な意見が多数を占める結果となった。
- 男女別で見ると、「とてもそう思う」「そう思う」を選んだ割合は、男性では約2割、女性では約1割と乖離しており、男女間でもその認識・印象には大きな差があることがわかる。



(2) 働く場所が充実していると思う理由(充実していると思う方)

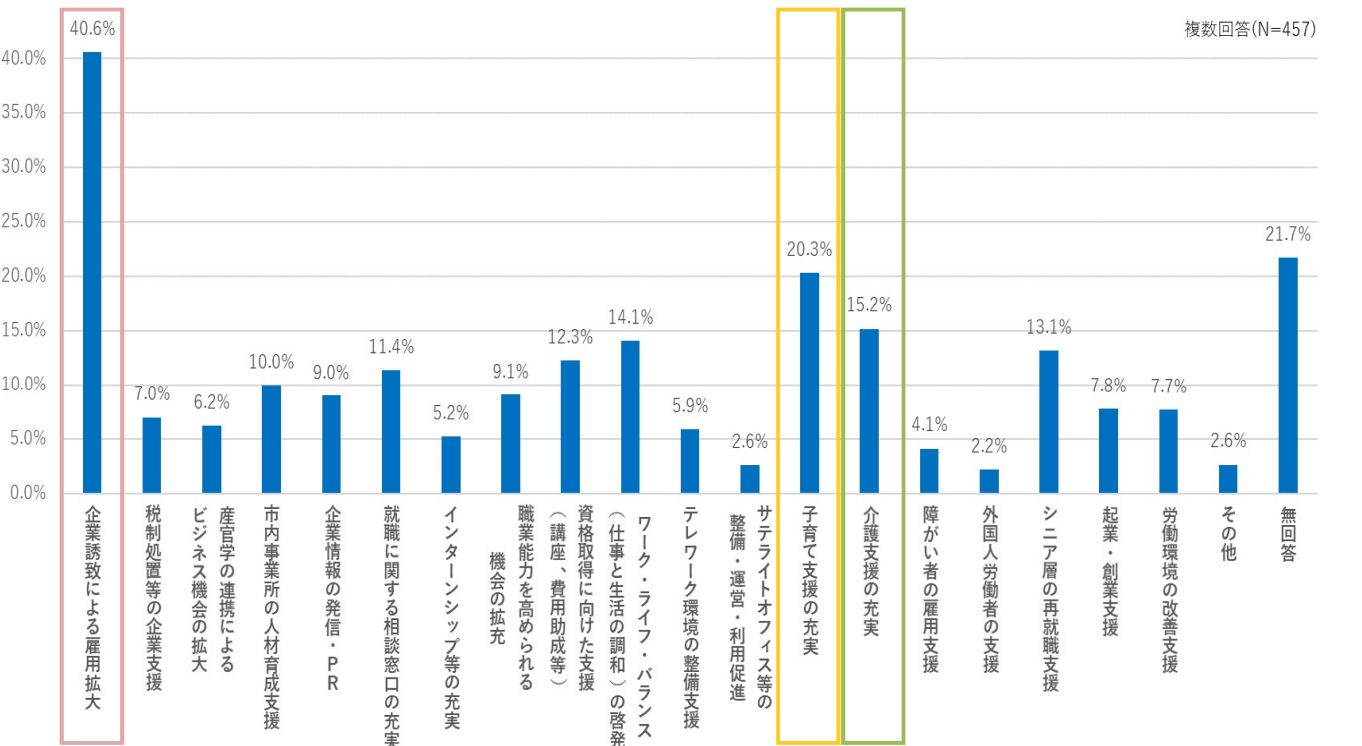
- 働く場所が充実していると感じる理由としては、「地元産業に関する企業が多いから」が73.0%と最も多く、地元における企業の存在が充実感の主な要因となっている。
- 一方で、「テレワーク・リモートワーク等、多様な働き方を推奨する職場が多いから」という理由を選んだ方は一人もおらず、津久見市において働く場所の多様化が進めば、さらに働く場所の充実が図られることが考えられます。



複数回答(N=69)											
	性別			年代別							
	男性(N=41)	女性(N=26)	回答しない・無回答(N=2)	18～29歳(N=12)	30～39歳(N=7)	40～49歳(N=12)	50～59歳(N=11)	60～69歳(N=5)	70～79歳(N=13)	80歳以上(N=9)	無回答(N=)
希望する仕事内容を満たす職場が多いから	24.4%	23.1%		41.7%	28.6%	25.0%		20.0%	30.8%	11.1%	
賃金水準が高いから	26.8%	11.5%		16.7%		8.3%	18.2%	40.0%	38.5%	22.2%	
立地条件の良い職場が多いから	24.4%	19.2%		8.3%	14.3%	8.3%	36.4%	20.0%	23.1%	44.4%	
福利厚生が充実した職場が多いから	14.6%	19.2%			42.9%	8.3%	18.2%		30.8%	11.1%	
地元産業に関連する企業が多いから	78.0%	57.7%	100.0%	66.7%	42.9%	83.3%	63.6%	100.0%	76.9%	66.7%	
テレワーク・リモートワーク等、多様な働き方を推奨する職場が多いから											
女性の雇用機会が充実した職場が多いから	2.4%	7.7%			14.3%		9.1%			11.1%	
若年層の雇用機会が充実した職場が多いから	7.3%	7.7%		8.3%		8.3%	9.1%		15.4%		
子育てとの両立ができる職場が多いから	2.4%	19.2%		8.3%	28.6%	16.7%				11.1%	
介護との両立ができる職場が多いから		3.8%		8.3%							
高齢者の雇用機会が充実した職場が多いから	14.6%	7.7%		8.3%		8.3%		20.0%	23.1%	22.2%	
障がい者の雇用機会が充実した職場が多いから		3.8%					9.1%				
その他	2.4%						9.1%				
無回答											
		上位 1 位			上位 2 位				上位 3 位		

(4) 今後、行政が力を入れて取り組むべきだと思うこと（全体）

- ・ 津久見市において今後行政が力を入れるべき取組としては、「企業誘致による雇用拡大」が最多(40.6%)であり、次いで「子育て支援の充実」や「介護支援の充実」など、働きやすい社会環境づくりへの期待が高いことが示された。
- ・ 年代・性別問わず「企業誘致による雇用拡大」が最も多かったが、20～40代は「ワーク・ライフ・バランスの啓発」や「子育て支援」への回答が上位を占め、この傾向は50代以降と異なる結果となった。

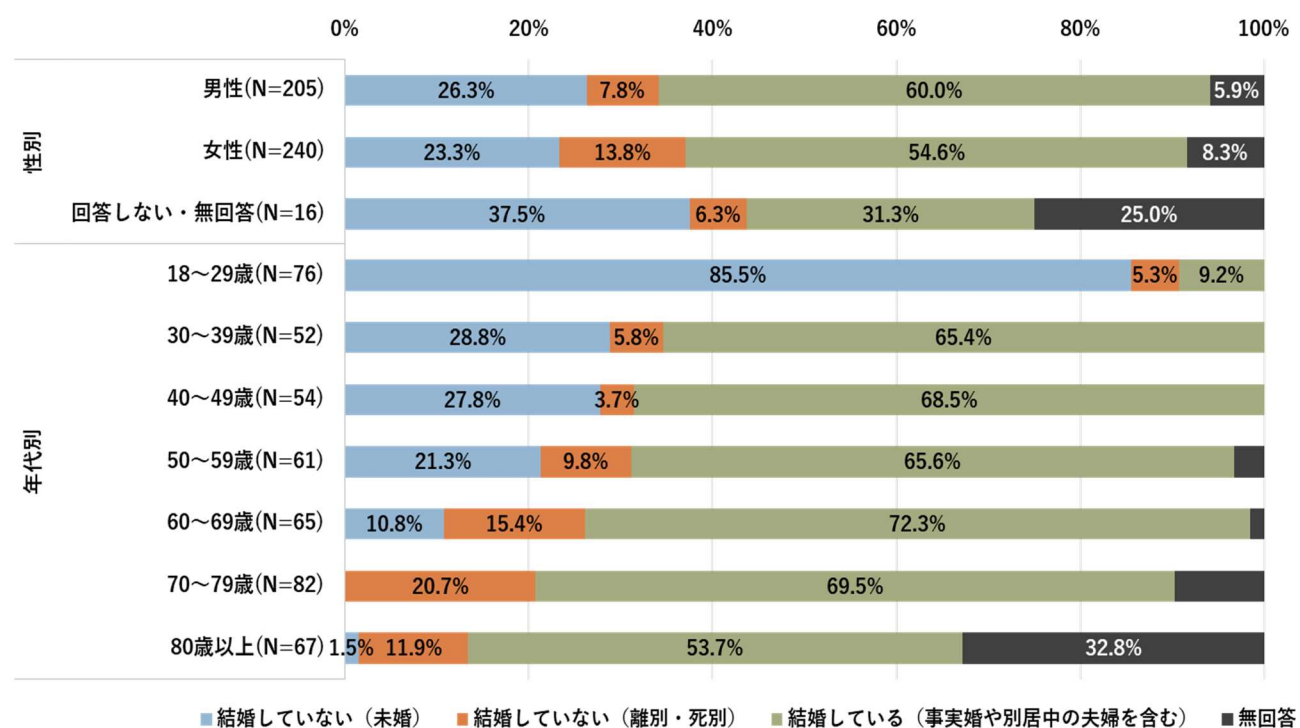
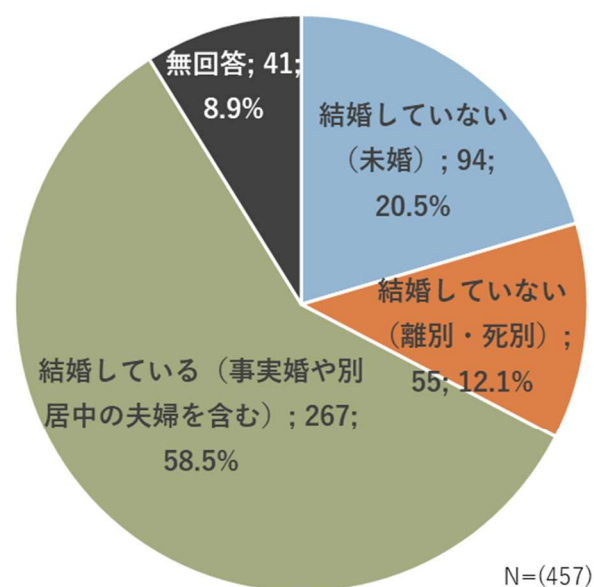


	性別			年代別							
	男性 (N=205)	女性 (N=240)	回答しない・無回答 (N=16)	18～29歳 (N=76)	30～39歳 (N=52)	40～49歳 (N=54)	50～59歳 (N=61)	60～69歳 (N=65)	70～79歳 (N=82)	80歳以上 (N=67)	無回答 (N=4)
企業誘致による雇用拡大	49.3%	34.2%	37.5%	35.5%	44.2%	40.7%	52.5%	44.6%	37.8%	34.3%	50.0%
税制処置等の企業支援	12.7%	3.3%	18.8%	9.2%	19.2%	7.4%	9.8%	9.2%	3.7%	1.5%	
産官学の連携によるビジネス機会の拡大	6.8%	5.4%	6.3%	3.9%	5.8%	5.6%	6.6%	13.8%	4.9%	3.0%	
市内事業所の人材育成支援	9.3%	10.0%		10.5%	3.8%	3.7%	9.8%	12.3%	14.6%	7.5%	
企業情報の発信・PR	5.9%	11.7%	12.5%	15.8%	5.8%	5.6%	6.6%	7.7%	14.6%	3.0%	25.0%
就職に関する相談窓口の充実	9.3%	11.7%	6.3%	9.2%	1.9%	7.4%	13.1%	9.2%	13.4%	16.4%	
インターンシップ等の充実	5.4%	6.3%	6.3%	15.8%	3.8%	5.6%	9.8%	1.5%	2.4%	1.5%	
職業能力を高められる機会の拡充	10.2%	7.9%	12.5%	11.8%	9.6%	11.1%	3.3%	9.2%	8.5%	10.4%	
資格取得に向けた支援（講座、費用助成等）	13.2%	12.1%	25.0%	18.4%	11.5%	18.5%	8.2%	12.3%	12.2%	7.5%	50.0%
ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の啓発	11.7%	20.0%	18.8%	28.9%	28.8%	25.9%	16.4%	9.2%	8.5%	1.5%	
テレワーク環境の整備支援	6.8%	6.7%	25.0%	21.1%	15.4%	1.9%	9.8%	1.5%	2.4%		
サテライトオフィス等の整備・運営・利用促進	3.9%	1.3%	12.5%	2.6%	3.8%	3.7%	6.6%	4.6%			
子育て支援の充実	18.0%	25.0%	12.5%	28.9%	26.9%	25.9%	19.7%	16.9%	12.2%	22.4%	25.0%
介護支援の充実	12.2%	16.3%	6.3%	5.3%	11.5%	14.8%	14.8%	10.8%	19.5%	22.4%	
障がい者の雇用支援	5.9%	2.9%	6.3%	3.9%	7.7%		9.8%	3.1%	3.7%	3.0%	
外国人労働者の支援	3.4%	1.3%		1.3%	3.8%	1.9%	1.6%	1.5%	2.4%	3.0%	
シニア層の再就職支援	10.7%	12.9%		2.6%		5.6%	21.3%	16.9%	19.5%	11.9%	
起業・創業支援	11.2%	5.0%	12.5%	14.5%	3.8%	11.1%	8.2%	12.3%	2.4%	4.5%	
労働環境の改善支援	7.8%	9.2%	6.3%	9.2%	17.3%	14.8%	3.3%	4.6%	3.7%	10.4%	
その他	2.9%	2.9%		3.9%	3.8%	5.6%		4.6%		3.0%	
無回答	18.5%	21.7%	18.8%	5.3%	15.4%	18.5%	14.8%	23.1%	32.9%	26.9%	50.0%
	上位 1 位			上位 2 位				上位 3 位			

④ 津久見市の結婚・子ども・子育て支援の取組

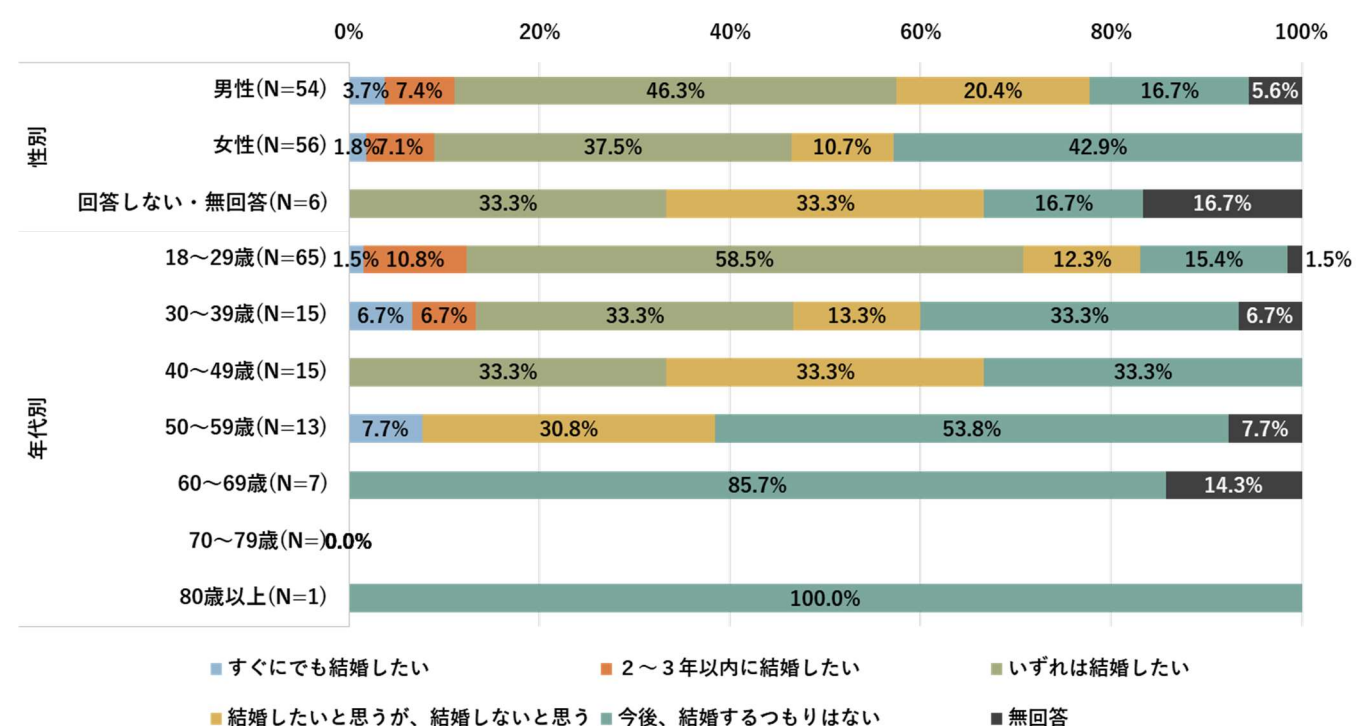
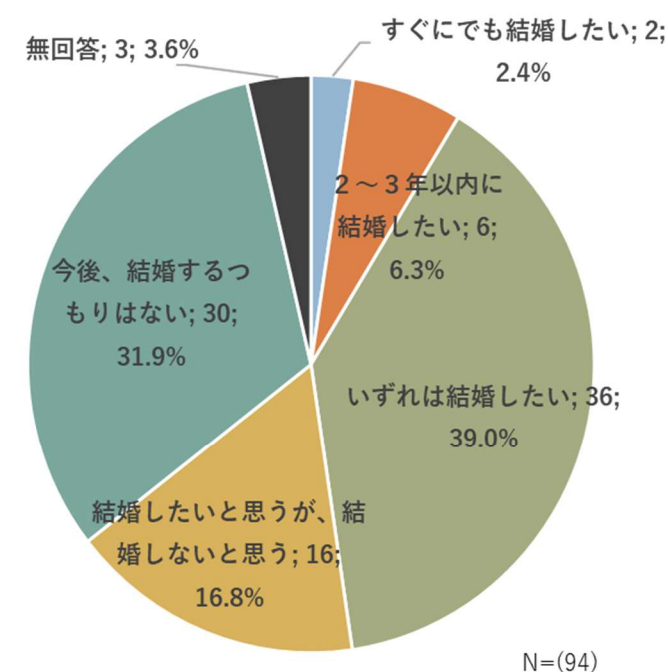
(1) 現在の婚姻状況（全体）

- 「結婚していない（未婚）」人は、全体の 20.5%であったが、20 代以下に限ると約 85%が未婚であることがわかる。これは 2020（令和 2）年国勢調査における 25～29 歳の未婚率（男性 84.2%、女性 71.9%）の値とおおむね一致している。



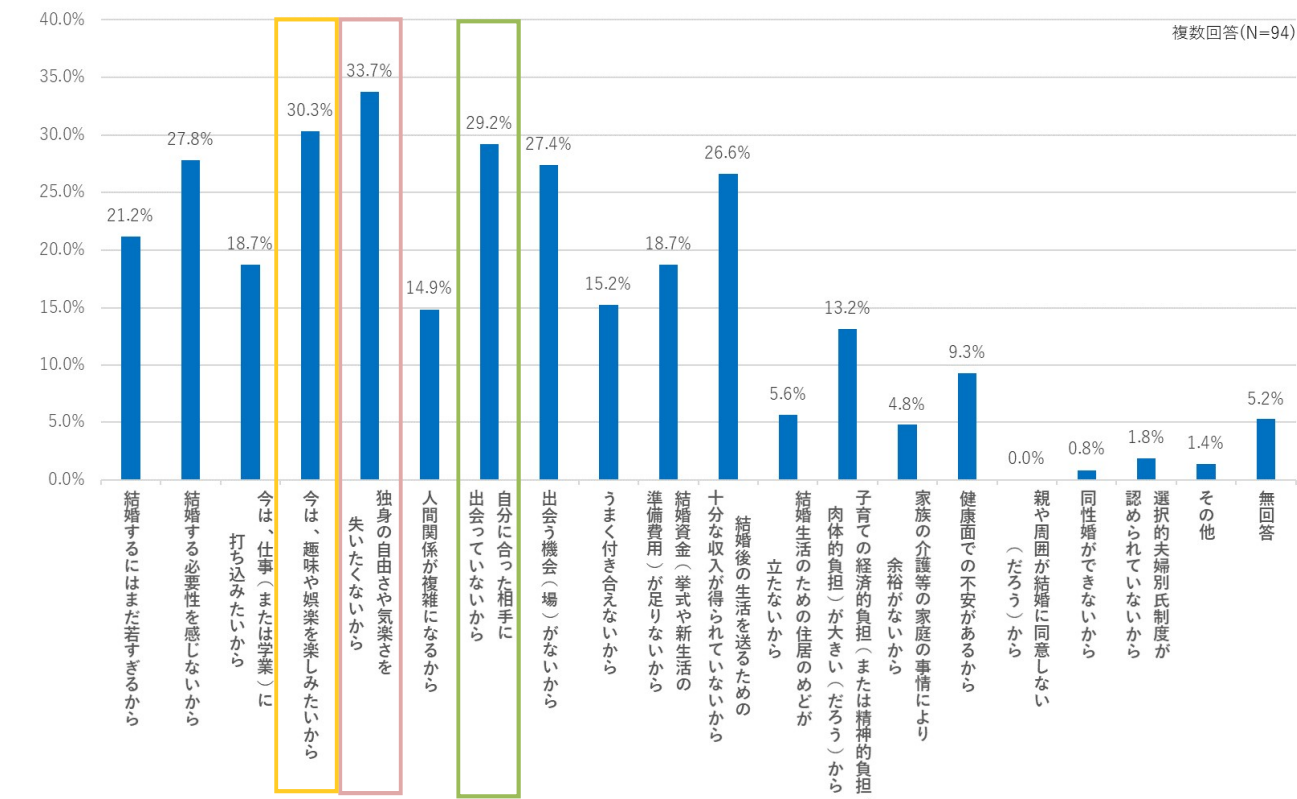
(2) 結婚に対する考え方（現在結婚していない（未婚）の方）

- 現在結婚していない方（未婚）に対して、今後の結婚に対する考え方を確認したところ、「すぐにでも結婚したい」、または「2～3年以内に結婚したい」と回答した人は 8.7%にとどまりましたが、「いずれは結婚したい」という方も含めると 47.7%と、半数近くが結婚を希望している。
- また 20 代以下に限れば、「すぐにでも結婚したい」、「2～3年以内に結婚したい」、「いずれは結婚したい」という方は約 7 割にものぼる結果となった。



(3) 結婚していない（結婚しない）理由（現在結婚していない（未婚）の方）

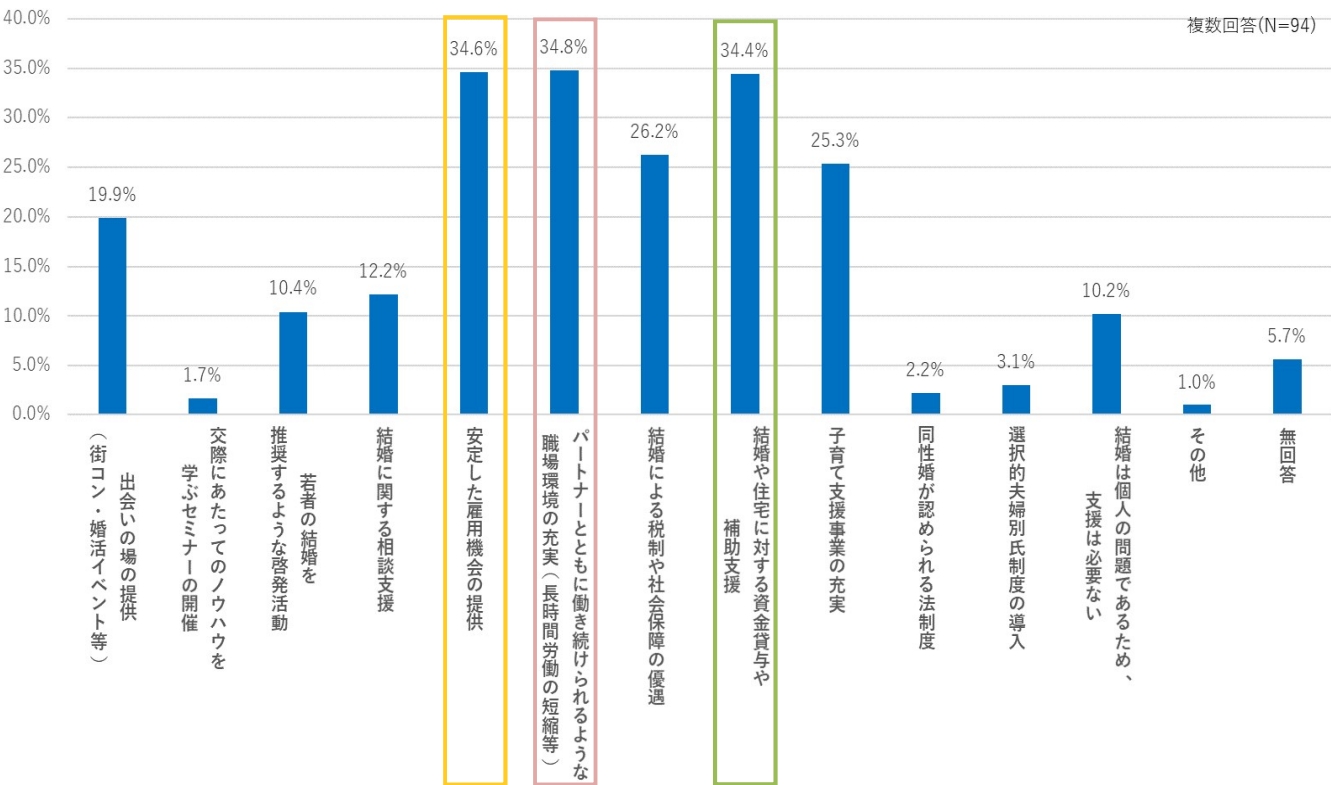
- 結婚していない理由として最も多かったのは、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（33.7%）で、次いで「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」（30.3%）、「自分に合った相手に出会っていないから」（29.2%）など、多様な意見が挙がった。
- 年代別では、18～29 歳では「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」（43.1%）が上位となっており、結婚自体に対する心理的準備段階での課題が見られる。
- 男女別の特徴的な違いとして、「結婚する必要性を感じないから」という理由が男性は 16.7%に対して女性は 33.9%と約 2 倍となっており、結婚観について、男女で大きく異なることがわかりました。



複数回答(N=116)											
	性別			年代別							
	男性 (N=54)	女性 (N=56)	回答しない・無回答 (N=6)	18～29歳 (N=65)	30～39歳 (N=15)	40～49歳 (N=15)	50～59歳 (N=13)	60～69歳 (N=7)	70～79歳 (N=)	80歳以上 (N=1)	無回答 (N=)
結婚するにはまだ若すぎるから	27.8%	19.6%		38.5%	6.7%						
結婚する必要性を感じないから	16.7%	33.9%	66.7%	21.5%	40.0%	26.7%	30.8%	57.1%			
今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから	14.8%	23.2%	33.3%	29.2%	13.3%	13.3%					
今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	27.8%	33.9%	50.0%	43.1%	33.3%		15.4%	28.6%			
独身の自由さや気楽さを失いたくないから	27.8%	37.5%	33.3%	32.3%	26.7%	33.3%	23.1%	71.4%			
人間関係が複雑になるから	7.4%	23.2%	16.7%	7.7%	40.0%	13.3%	23.1%	28.6%			
自分に合った相手に出会っていないから	31.5%	32.1%		36.9%	26.7%	26.7%	15.4%	14.3%			
出会う機会（場）がないから	31.5%	26.8%	33.3%	33.8%	40.0%	26.7%	15.4%				
うまく付き合えないから	14.8%	14.3%	33.3%	10.8%	26.7%	20.0%	23.1%	14.3%			
結婚資金（挙式や新生活の準備費用）が足りないから	25.9%	12.5%	33.3%	21.5%	26.7%	20.0%	15.4%				
結婚後の生活を送るための十分な収入が得られていないから	33.3%	19.6%	33.3%	29.2%	20.0%	33.3%	23.1%	14.3%			
結婚生活のための住居のめどが立たないから	9.3%	3.6%		7.7%	6.7%	6.7%					
子育ての経済的負担（または精神的負担、肉体的負担）が大きい（だろう）から	13.0%	16.1%	16.7%	16.9%	26.7%	13.3%					
家族の介護等の家庭の事情により余裕がないから	1.9%	7.1%			6.7%	13.3%	7.7%	14.3%			
健康面での不安があるから	9.3%	7.1%	16.7%	6.2%		33.3%	7.7%				
親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から											
同性婚ができないから		1.8%		1.5%							
選択的夫婦別氏制度が認められていないから	1.9%	1.8%		1.5%		6.7%					
その他	3.7%			1.5%	6.7%						
無回答	3.7%	7.1%		1.5%	13.3%	6.7%	7.7%			100.0%	
	上位 1 位			上位 2 位				上位 3 位			

(4) 結婚に対してあると良い支援（現在結婚していない（未婚）の方）

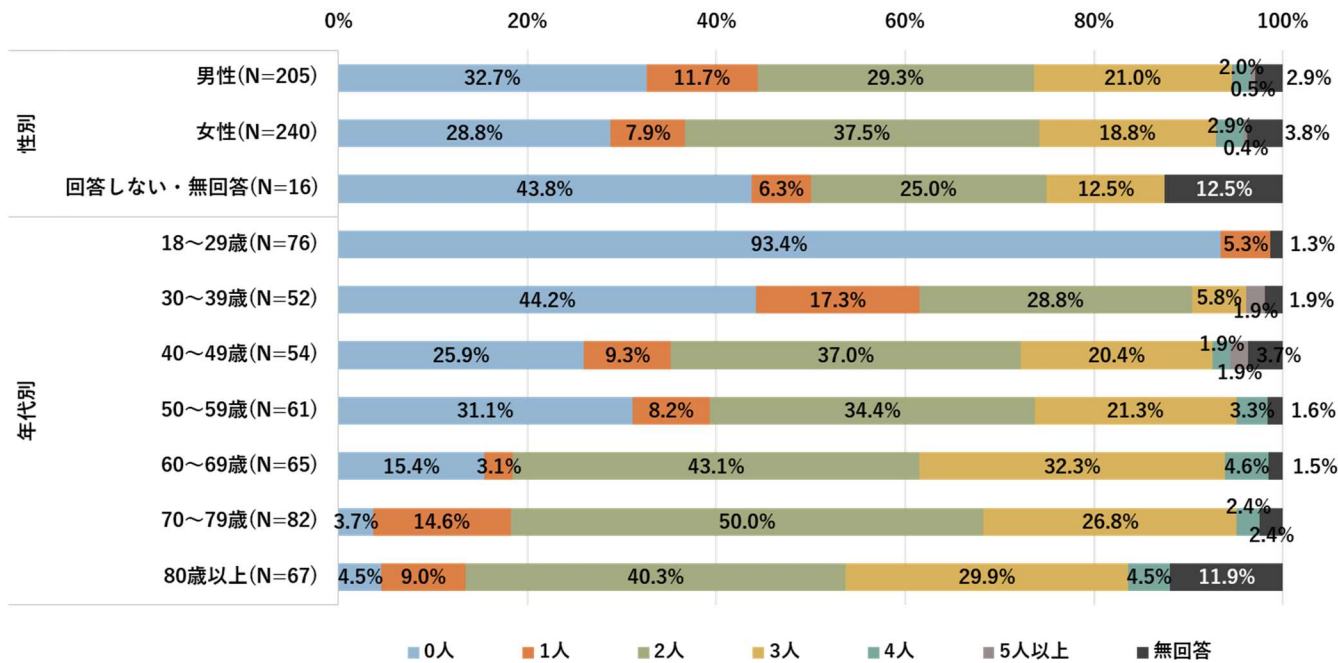
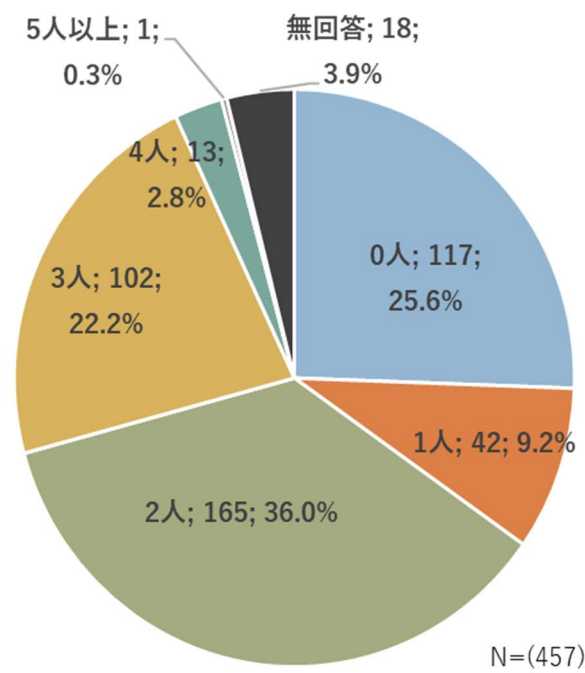
- 結婚に対してあると良いと考えられている支援としては、「パートナーとともに働き続けられるような職場環境の充実」が最も多く、34.8%を占めた。次いで、「安定した雇用機会の提供」（34.6%）、「結婚や住宅に対する資金補助支援」（34.4%）が続き、安定した雇用・職場環境や定住に関わる生活基盤への経済的支援を求める声が多かった。
- 年代別では、「パートナーとともに働き続けられるような職場環境の整備（長時間労働の是正等）」については主に 30～40 代に多く選ばれ、働き方改革への期待が現役世代を中心に見られた。



複数回答（N＝116）	性別			年代別							
	男性 (N=54)	女性 (N=56)	回答しない・無回答(N=6)	18～29歳 (N=65)	30～39歳 (N=15)	40～49歳 (N=15)	50～59歳 (N=13)	60～69歳 (N=7)	70～79歳 (N=)	80歳以上 (N=1)	無回答 (N=)
出会いの場の提供（街コン・婚活イベント等）	27.8%	14.3%	33.3%	24.6%	33.3%	13.3%	15.4%				
交際にあたってのノウハウを学ぶセミナーの開催	3.7%			3.1%							
若者の結婚を推奨するような啓発活動	11.1%	10.7%	16.7%	18.5%	6.7%						
結婚に関する相談支援	13.0%	12.5%		18.5%			7.7%	14.3%			
安定した雇用機会の提供	33.3%	37.5%	16.7%	32.3%	33.3%	46.7%	38.5%	28.6%			
パートナーとともに働き続けられるような職場環境の充実 （長時間労働の短縮等）	27.8%	41.1%	33.3%	30.8%	40.0%	46.7%	23.1%	42.9%		100.0%	
結婚による税制や社会保障の優遇	40.7%	14.3%	16.7%	29.2%	26.7%	13.3%	38.5%	14.3%			
結婚や住宅に対する資金貸与や補助支援	40.7%	33.9%		43.1%	33.3%	13.3%	30.8%	28.6%			
子育て支援事業の充実	33.3%	17.9%	33.3%	29.2%	26.7%	20.0%	15.4%	28.6%			
同性婚が認められる法制度	1.9%	3.6%		3.1%	6.7%						
選択的夫婦別氏制度の導入		3.6%	16.7%	1.5%		6.7%		14.3%			
結婚は個人の問題であるため、支援は必要ない	7.4%	12.5%	16.7%	6.2%	20.0%	13.3%	15.4%	14.3%			
その他		1.8%				6.7%					
無回答	1.9%	7.1%	16.7%	1.5%	6.7%	6.7%	15.4%	14.3%			
		上位 1 位		上位 2 位				上位 3 位			

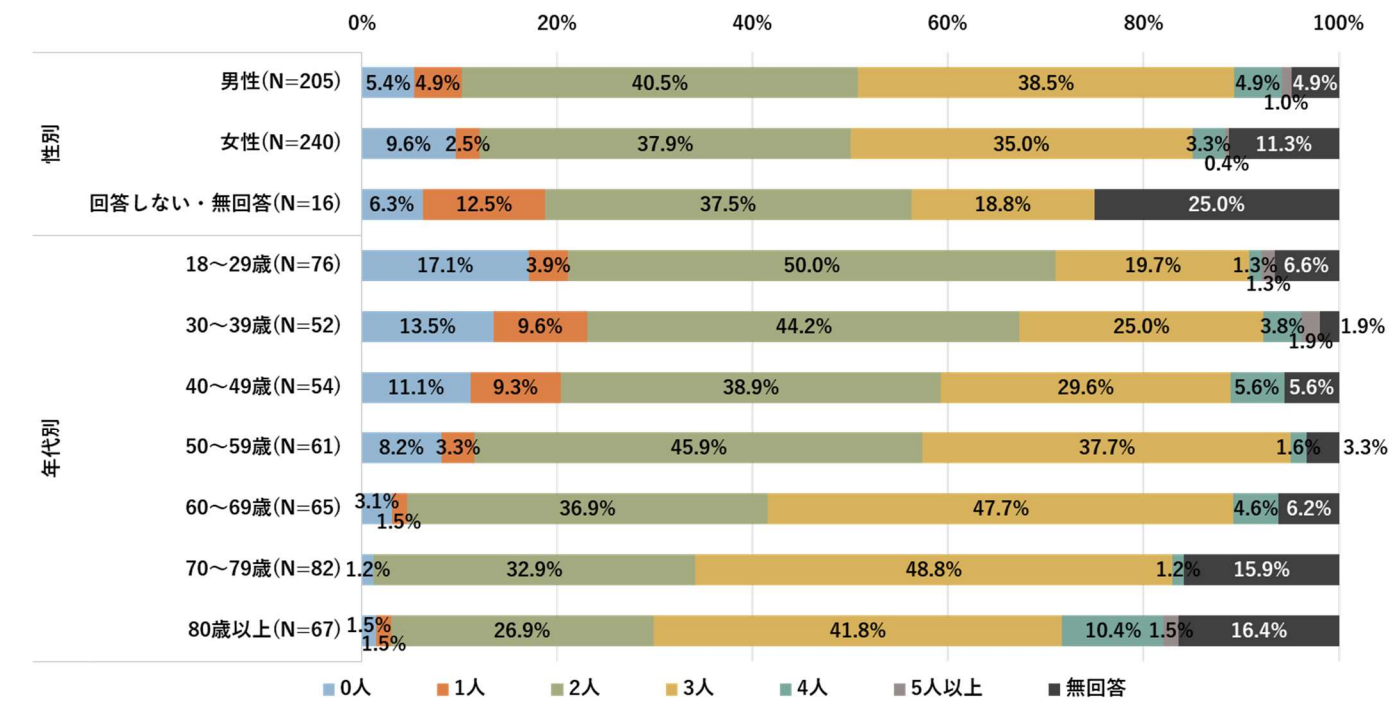
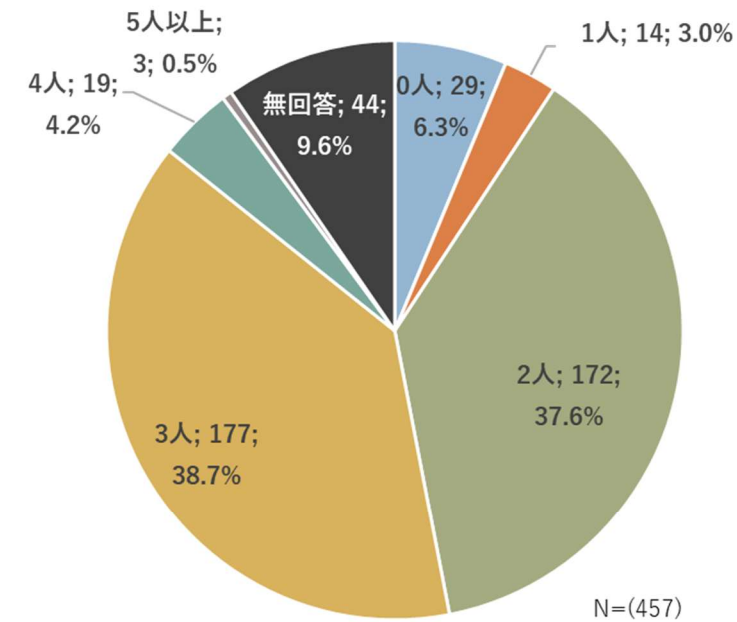
(5) 現在の子どもの数（全体）

- ・ 現在の子どもの数は、「2人」が最も多く（36%）、「0人」（25.6%）、「3人」（22.2%）と続いている。



(6) 理想の子どもの数（全体）

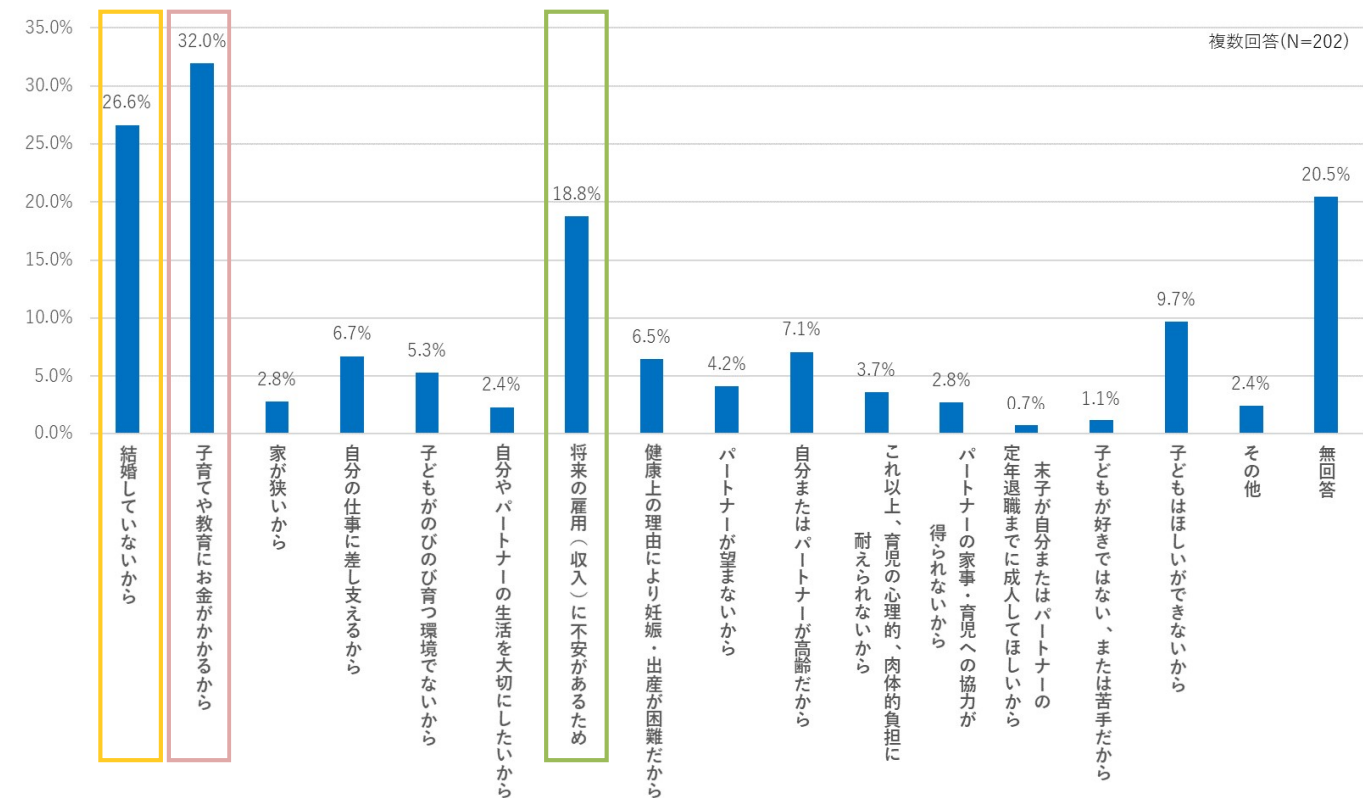
- ・ 理想の子どもの数は「3人」が最も多く（38.7%）、「2人」（37.6%）、「0人」（6.3%）と続いている。



(7) 現在いる子どもの人数が、理想とする子どもの人数に比べて少ない理由

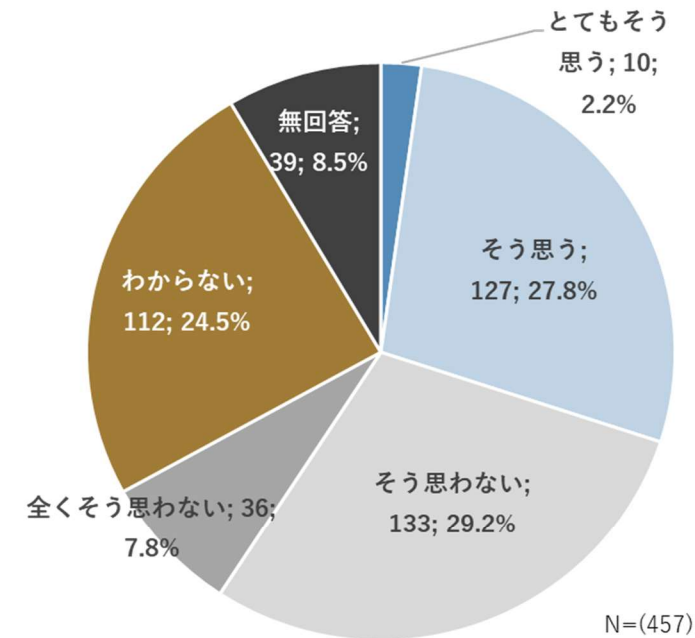
(現在いる子どもの人数が、理想とする子どもの人数に比べて少ない方)

- 現在いる子どもの人数が、理想とする子どもの人数に比べて少ない方に、その理由を確認したところ、「子育てや教育にお金がかかるから」(32.0%) が最も多く、次いで「結婚していないから」(26.6%)、「将来の雇用(収入)に不安があるため」(18.8%)が続いた。このことから、子育てにかかる支出及びそれをまかなうための収入に対する不安がうかがえる。



(8) 津久見市は子育てがしやすいまちだと思うか(全体)

- 津久見市は子育てがしやすいまちだと思うかを確認したところ、「とてもそう思う」、「そう思う」を合わせた回答 30.0%に対し、「そう思わない」、「全くそう思わない」を合わせた回答が 37.0%と、子育てしやすいという回答がやや少ない結果となった。
- 男女別で見るとあまり大きな違いがないことがうかがえる。また年代別に見ると、実際に今後子育てに携わる割合が高いと考えられる18～29歳は、「とてもそう思う」「そう思う」と答えた割合は18.4%と、他の年代と比較して最も低い結果となった。

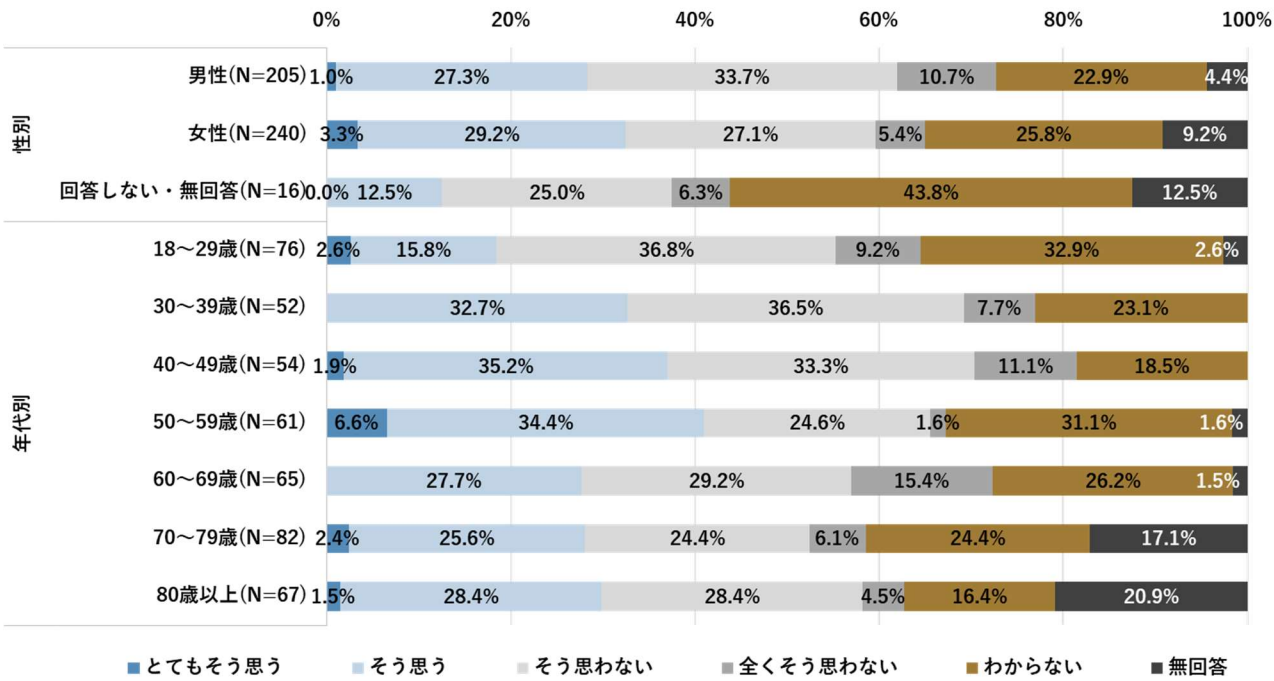


	性別			年代別							
	男性 (N=114)	女性 (N=100)	回答しない・無回答 (N=6)	18～29歳 (N=58)	30～39歳 (N=38)	40～49歳 (N=21)	50～59歳 (N=29)	60～69歳 (N=22)	70～79歳 (N=27)	80歳以上 (N=25)	無回答 (N=)
結婚していないから	32.5%	28.0%	50.0%	67.2%	28.9%	33.3%	20.7%	13.6%	3.7%	4.0%	
子育てや教育にお金がかかるから	28.1%	38.0%	16.7%	20.7%	39.5%	38.1%	48.3%	36.4%	25.9%	28.0%	
家が狭いから	4.4%	1.0%		1.7%	2.6%		6.9%		3.7%	4.0%	
自分の仕事に差し支えるから	4.4%	8.0%			5.3%		10.3%	13.6%	3.7%	16.0%	
子どもがのびのび育つ環境でないから	7.9%	3.0%	16.7%	5.2%	10.5%	4.8%	6.9%	4.5%		8.0%	
自分やパートナーの生活を大切にしたいから	3.5%	1.0%		1.7%	2.6%		3.4%		3.7%	4.0%	
将来の雇用(収入)に不安があるため	21.1%	17.0%	16.7%	10.3%	23.7%	28.6%	34.5%	13.6%	18.5%	12.0%	
健康上の理由により妊娠・出産が困難だから	5.3%	7.0%			5.3%	9.5%	10.3%	9.1%	11.1%	4.0%	
パートナーが望まないから	5.3%	2.0%			5.3%			4.5%	11.1%	8.0%	
自分またはパートナーが高齢だから	4.4%	10.0%			2.6%	23.8%	24.1%	4.5%	3.7%		
これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	2.6%	5.0%		1.7%	5.3%	4.8%	3.4%			12.0%	
パートナーの家事・育児への協力が得られないから		6.0%			5.3%		3.4%	4.5%	3.7%	4.0%	
末子自分またはパートナーの定年退職までに成人してほしいから	0.9%	1.0%			2.6%		3.4%				
子どもが好きではない、または苦手だから	1.8%							9.1%			
子どもはほしいができないから	11.4%	7.0%	16.7%	1.7%	13.2%	4.8%	20.7%	22.7%	11.1%		
その他	1.8%	4.0%		1.7%	5.3%	4.8%	3.4%		3.7%		
無回答	15.8%	21.0%	16.7%	19.0%	5.3%	9.5%	13.8%	9.1%	29.6%	44.0%	

上位 1 位

上位 2 位

上位 3 位



(9) 津久見市において子育てがしやすい、または子育てがしづらいと思う具体的な理由（全体）

(総論)

- 子育てのしやすさについて、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した方からは、主に保育料・医療費の無償化、地域住民による見守り、自然環境の良さなどが好意的に評価されている。また、小規模校による目の届く環境や、待機児童がいないことも安心材料となっている。
- 一方、「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した方については、医療機関や買い物環境の不足、遊び場の少なさ、交通や通学の不便さなど、生活インフラ面での不満が多く見られた。産婦人科や小児科の不足、働く場や収入の不安、教育水準や将来への選択肢の乏しさなど、都市機能や将来展望に関する課題も指摘されている。

(主な意見)

1. とてもそう思う

- 保育料・医療費など経済的支援が充実している
- 自然に囲まれた環境や、地域の温かい雰囲気が子育てに適している
- 子育てに協力的な住民の存在や、昔ながらの地域のつながりがある

2. そう思う

- 医療費や保育料などの支援策は助かる
- 地域の目が届きやすく、安全面で安心
- 小児医療の専門性や通院・通学面での課題も一部から指摘
- 支援はあるが、働き先や子どもの将来選択肢の乏しさに不安あり

3. そう思わない

- 医療機関（特に産婦人科・小児科）の不足、夜間対応への不安
- 子どもが遊ぶ場所や施設の少なさ、地域間の格差
- 保育・教育・就労機会の選択肢が少ない、買い物環境が整っていない
- 地方特有の同調圧力や、子育てスタイルへの押しつけ感を指摘する声も

4. 全くそう思わない

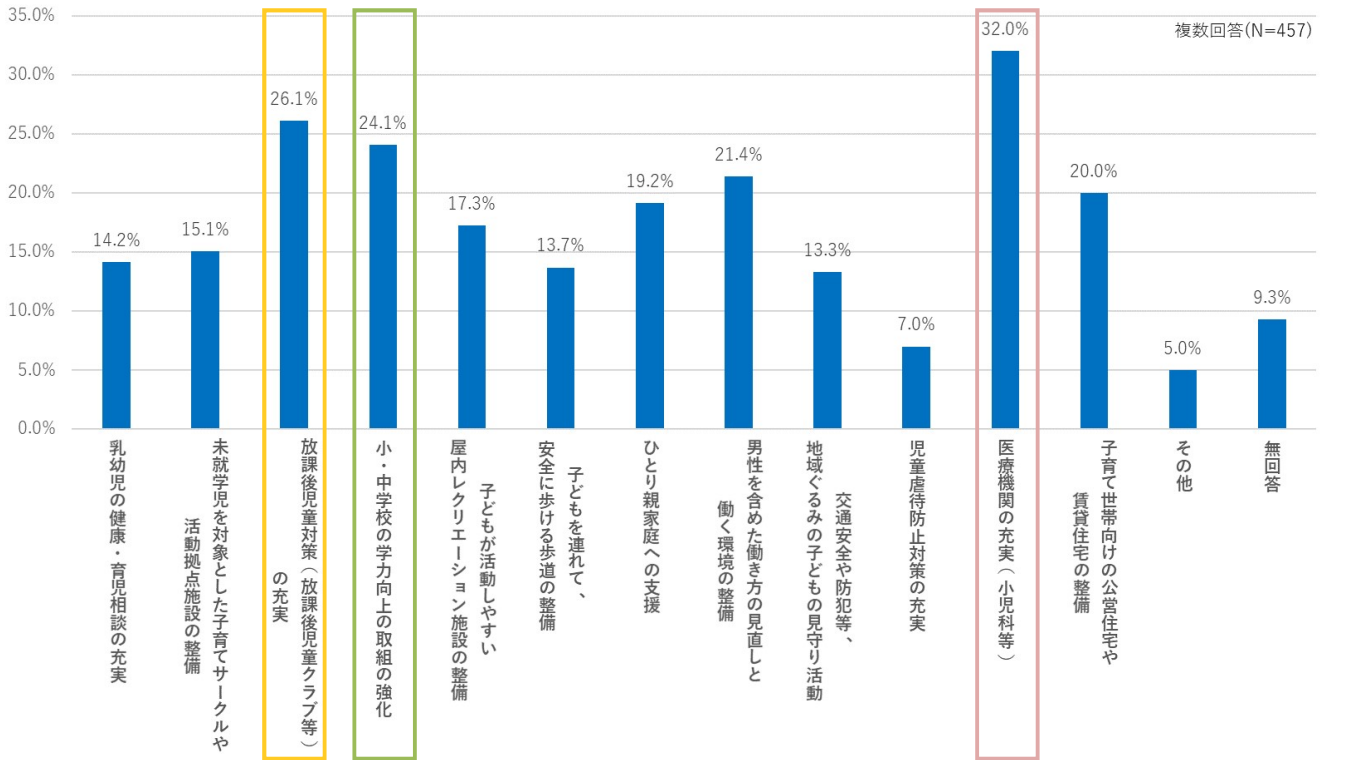
- 通勤・通学の負担、子育て支援の不足、交通や買い物の不便さ
- 高齢化と人口減少により活気が乏しく、子どもの成長に不安
- 子どもが少ないことで教育・交流面に課題を感じる
- 賃金の低さや働く場の少なさから、将来への希望が持てない

5. どちらでもない

- 子育て未経験・終了層からは、状況が分からないという声が多い
- 支援はあるが医療・教育のインフラ不足が気になるとの意見あり
- 地域内の情報格差や、外部との比較による不安も挙げられた

(10) 子ども・子育て支援として、今後、行政が力を入れて取り組むべきだと思うこと（全体）

- 子ども・子育て支援に関する今後の行政の取組については、「医療機関の充実」が最も多く挙げられ、次いで、「放課後児童対策の充実」や「小・中学校の学力向上の取組の強化」への要望も高く、医療サービスの充実とともに、柔軟で安心して利用できる子育て環境の整備が求められている。

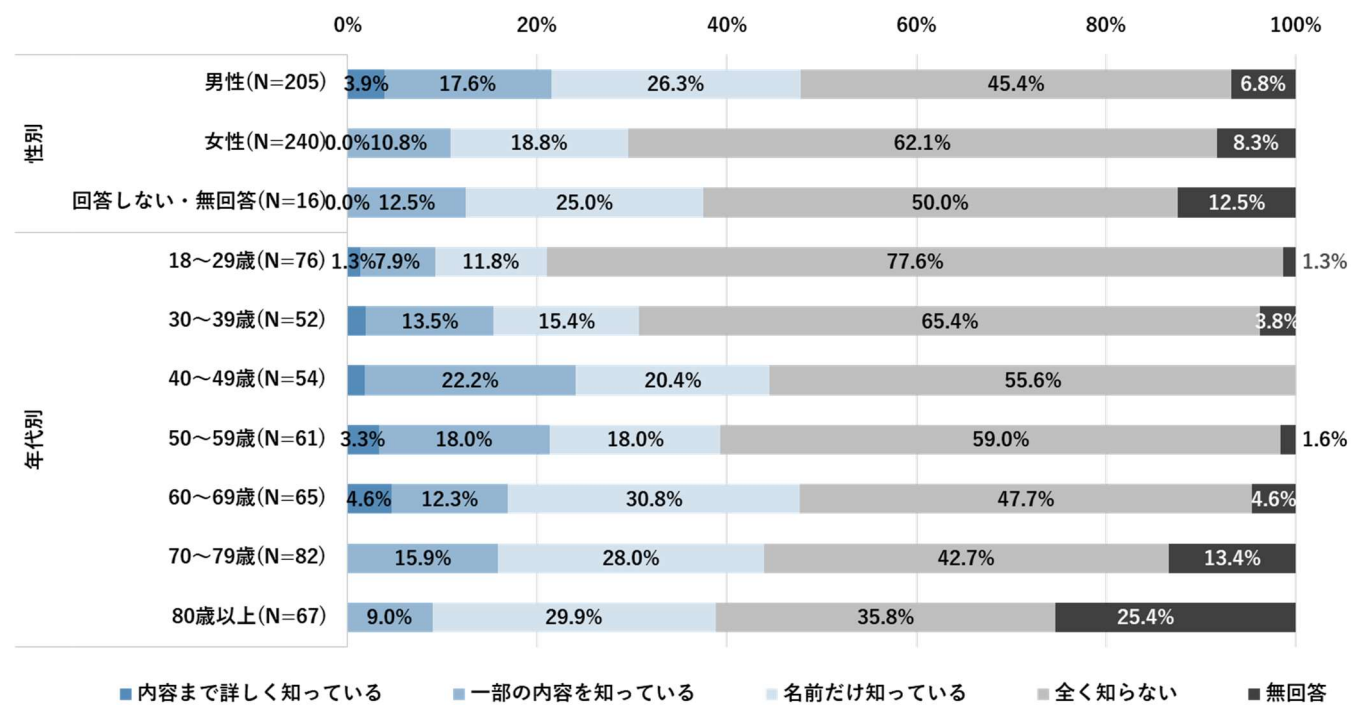
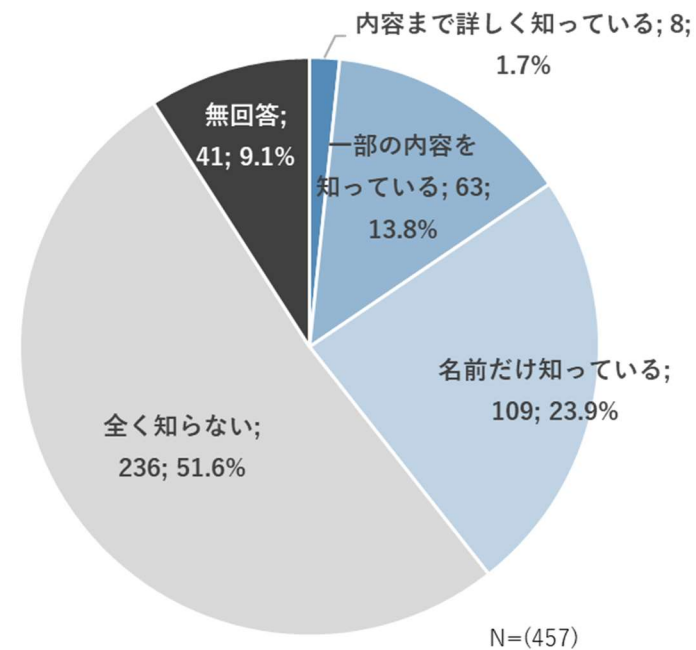


	性別			年代別							
	男性 (N=205)	女性 (N=240)	回答しない・無回答 (N=16)	18～29歳 (N=76)	30～39歳 (N=52)	40～49歳 (N=54)	50～59歳 (N=61)	60～69歳 (N=65)	70～79歳 (N=82)	80歳以上 (N=67)	無回答 (N=4)
乳幼児の健康・育児相談の充実	15.1%	15.0%		25.0%	13.5%	13.0%	11.5%	10.8%	15.9%	10.4%	
未就学児を対象とした子育てサークルや活動拠点施設の整備	15.1%	14.6%	6.3%	10.5%	15.4%	7.4%	14.8%	26.2%	19.5%	7.5%	
放課後児童対策（放課後児童クラブ等）の充実	21.5%	27.1%	12.5%	14.5%	13.5%	25.9%	19.7%	29.2%	35.4%	28.4%	
小・中学校の学力向上の取組の強化	28.3%	22.5%	25.0%	19.7%	30.8%	38.9%	31.1%	23.1%	15.9%	22.4%	50.0%
子どもが活動しやすい屋内レクリエーション施設の整備	22.0%	17.5%	25.0%	28.9%	44.2%	16.7%	13.1%	13.8%	15.9%	9.0%	25.0%
子どもを連れて、安全に歩ける歩道の整備	14.6%	15.0%		14.5%	23.1%	14.8%	16.4%	7.7%	15.9%	10.4%	
ひとりで親家庭への支援	19.0%	18.8%	25.0%	21.1%	17.3%	20.4%	13.1%	23.1%	22.0%	14.9%	25.0%
男性を含めた働き方の見直しと働く環境の整備	22.9%	21.7%	18.8%	27.6%	26.9%	22.2%	21.3%	30.8%	14.6%	14.9%	
交通安全や防犯等、地域ぐるみの子どもの見守り活動	12.7%	14.2%		10.5%	11.5%	16.7%	13.1%	12.3%	9.8%	19.4%	
児童虐待防止対策の充実	7.8%	6.3%		6.6%	5.8%	5.6%	3.3%	7.7%	3.7%	14.9%	
医療機関の充実（小児科等）	33.2%	32.5%	43.8%	30.3%	36.5%	42.6%	47.5%	33.8%	25.6%	20.9%	50.0%
子育て世帯向けの公営住宅や賃貸住宅の整備	21.5%	17.9%	25.0%	17.3%	13.0%	17.3%	13.1%	24.6%	23.2%	16.4%	
その他	5.9%	5.8%		7.9%	9.6%	7.4%	8.2%	3.1%	1.2%	4.5%	
無回答	4.4%	10.4%	25.0%	2.6%	1.9%		4.9%	3.1%	18.3%	19.4%	50.0%
		上位 1 位			上位 2 位				上位 3 位		

⑤ これからのまちづくり

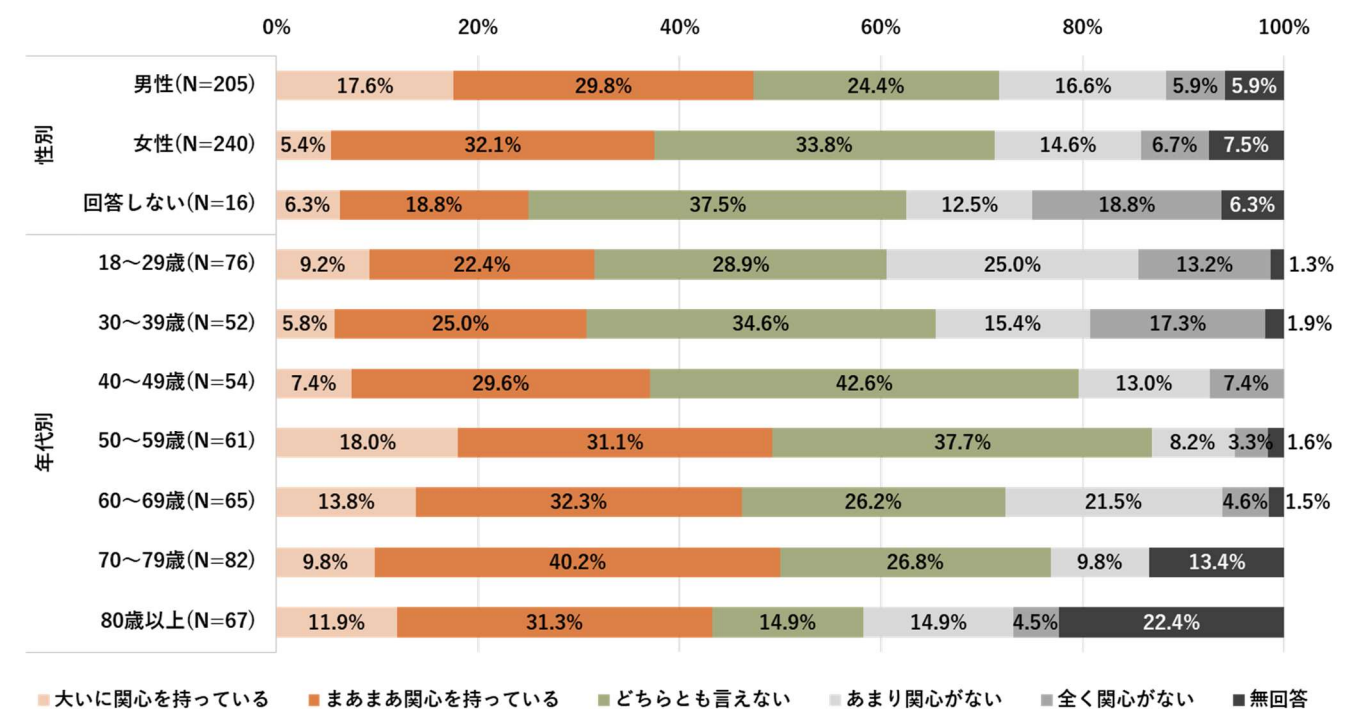
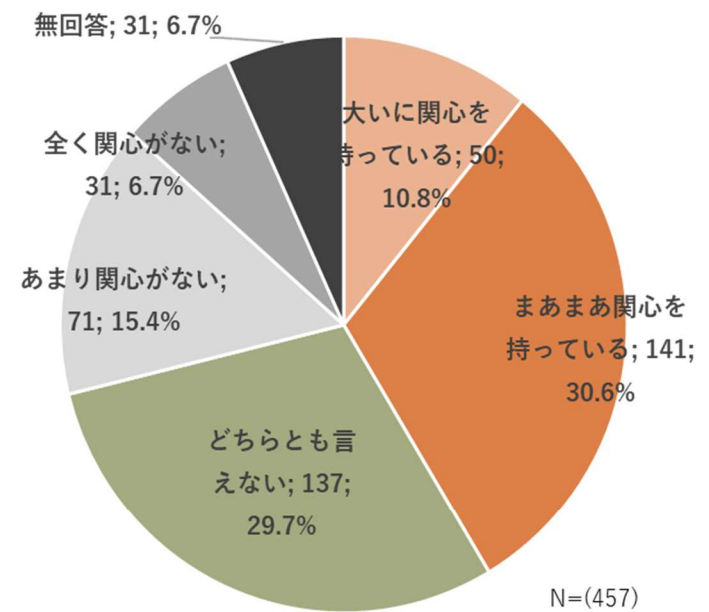
(1) 津久見市の総合計画・人口ビジョン・総合戦略をどの程度知っているか

- 「全く知らない」と回答した方が最も多く、全体の 51.6%を占めている。次いで「名前だけ知っている」が 23.9%、「一部の内容を知っている」が 13.8%となっており、「内容まで詳しく知っている」と回答した者は 1.7%にとどまっている。全体として、計画に対する認知度は低い状況である。
- 年代別に見ると、20 代以下において「全く知らない」の割合が 77.6%、30 代は 65.4%と高く、若い世代の認知度の低さが顕著である。



(2) 市の行政に関する関心度（全体）

- 市の行政に対する関心について尋ねたところ、「大いに関心を持っている」「まあまあ関心を持っている」と答えた割合は 41.4%であり、「あまり関心がない」「全く関心がない」と答えた割合 22.1%と比較すると、関心度はやや高いと言える。しかし「どちらとも言えない」と答えた割合は 29.7%と多いことには注意が必要である。
- 男女別では、男性は「大いに関心を持っている」という方が女性と比較するとやや多いことがわかる。年代別では、50 代以上は軒並み関心層が半数近くいるのに対し、40 代以下では関心層が 40%を下回る結果となっている。



(3) 市の行政にご関心がない理由（市の行政にご関心がない方）

(総論)

- 行政への関心が低い背景として、「変わらない」「期待できない」「関わる余裕がない」という心理的距離の遠さが共通して見られます。市政の透明性への不信感も市政に対する無力感や諦めにつながっています。
- 若年層では「自分に関係がない」「どうせ変わらない」といった傍観的な姿勢が目立ち、高齢層では長年の変化の乏しさへの諦めも見られます。

(主な意見)

4. あまり関心がない

「もう発展は望めない」「人口減が止まらない」といったあきらめ。

- 忙しさ、転勤族であること、他市での勤務などから関心が持てない。
- 身近なものとわかっていても余裕がない、触れる機会がないため関心が湧かない。

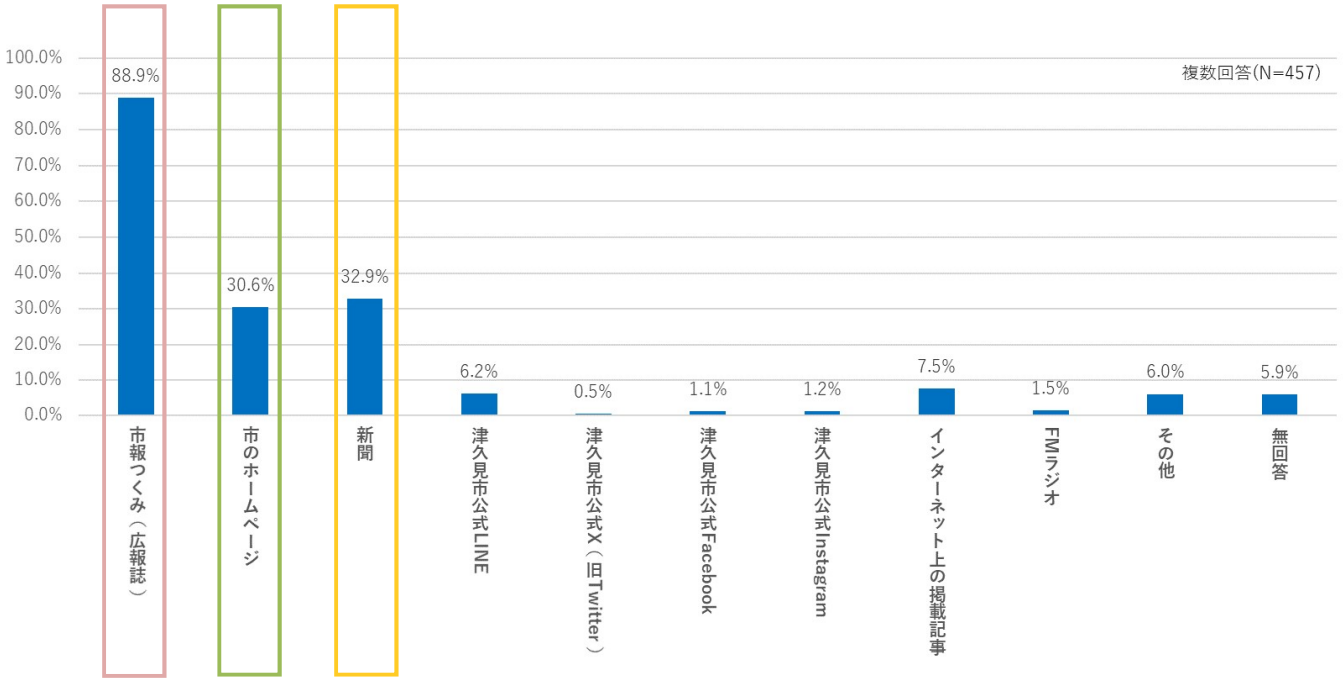
5. 全く関心がない

- 「意見が取り入れられない」「何も変わらない」など無力感。
- 新庁舎建設や職員数の多さに「無駄遣い」と強い否定感。

市政が一部の人だけで進められているという排他性への不満。

(4) 市の情報の入手方法（全体）

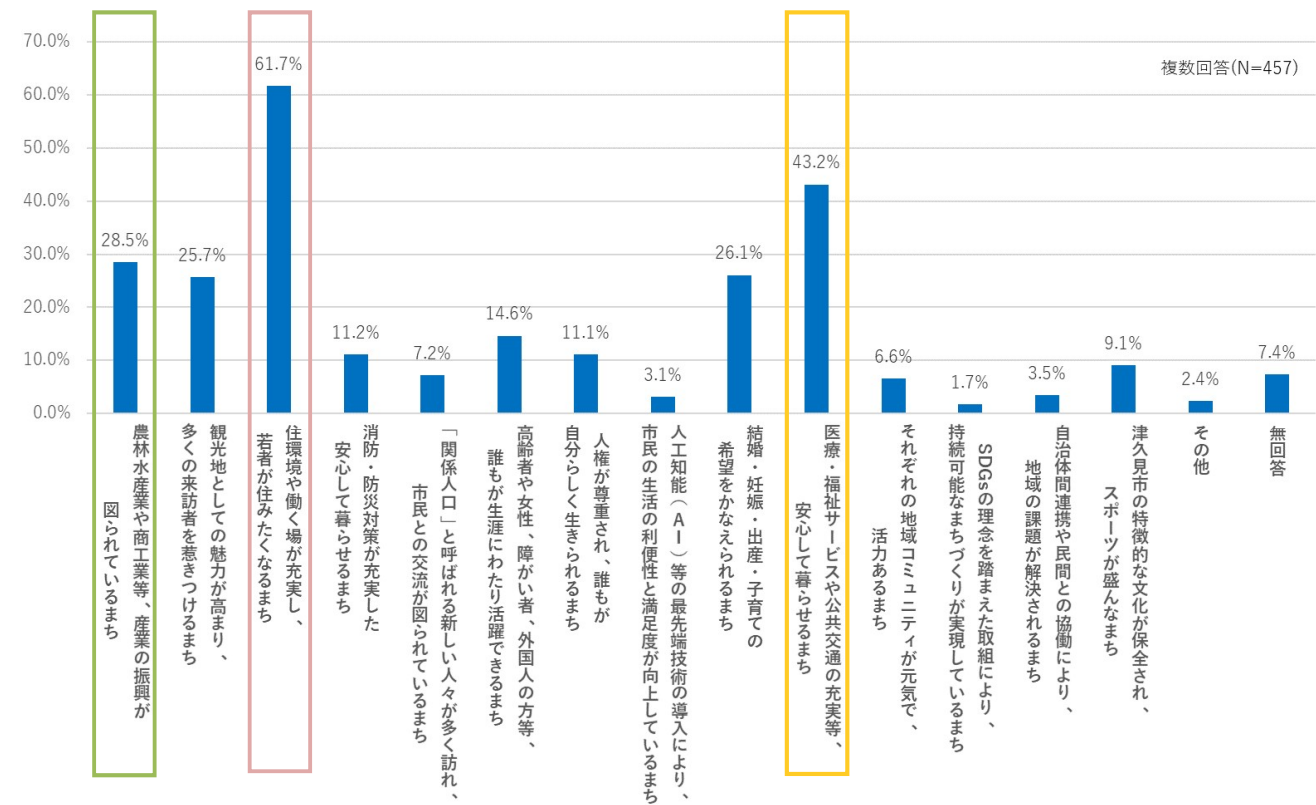
- 市政に関する情報の入手手段としては、「市報つくみ（広報誌）」が最も多く 88.9%にのぼった。次いで「新聞」（32.9%）、「市のホームページ」（30.6%）が続いている一方で、「津久見市公式 LINE」や「インターネット上の掲載記事」などのデジタルメディアは一部にとどまっている。
- 男女別・年代別では、18～29 歳で新聞（7.9%）よりもインターネット上の掲載記事（18.4%）を選んだ割合が高かったが、それ以外に特筆すべき傾向の差は見られない。



	性別			年代別							
	男性 (N=205)	女性 (N=240)	回答しない・無回答 (N=16)	18～29歳 (N=76)	30～39歳 (N=52)	40～49歳 (N=54)	50～59歳 (N=61)	60～69歳 (N=65)	70～79歳 (N=82)	80歳以上 (N=67)	無回答 (N=4)
市報つくみ（広報誌）	86.3%	91.3%	75.0%	82.9%	92.3%	87.0%	91.8%	93.8%	90.2%	85.1%	50.0%
市のホームページ	39.0%	25.4%	50.0%	31.6%	42.3%	35.2%	42.6%	32.3%	26.8%	17.9%	75.0%
新聞	31.2%	27.9%	18.8%	7.9%	17.3%	13.0%	19.7%	44.6%	52.4%	41.8%	
津久見市公式LINE	6.3%	5.8%	18.8%	9.2%	3.8%	11.1%	6.6%	6.2%	7.3%		25.0%
津久見市公式X（旧Twitter）	0.5%	0.8%			1.9%	3.7%					
津久見市公式Facebook	1.0%	1.3%				3.7%	1.6%	3.1%			
津久見市公式Instagram	0.5%	2.9%		2.6%	7.7%	3.7%					
インターネット上の掲載記事	10.2%	7.1%		18.4%	11.5%	1.9%	6.6%	10.8%	3.7%	4.5%	
FMラジオ	2.0%	0.8%		1.3%		1.9%		1.5%	2.4%	1.5%	
その他	10.2%	2.9%	6.3%	3.9%	7.7%	9.3%	4.9%	12.3%	3.7%	3.0%	25.0%
無回答	4.9%	5.0%	18.8%	3.9%	1.9%	3.7%		1.5%	8.5%	14.9%	25.0%
		上位1位			上位2位			上位3位			

(5) 津久見市が将来にわたって活力ある地域であり続けるようにするために、どのようなまちになることを重視するか（全体）

- 将来の津久見市に求める姿としては、「住環境や働く場が充実し、若者が住みたくなるまち」（61.7%）が最も多く、次いで「医療・福祉サービスや公共交通の充実等、安心して暮らせるまち」（43.2%）、「農林水産業や商工業等、産業の振興が図られているまち」（28.5%）が続いた。
- 年代別でも、基本的に「住環境や働く場が充実し、若者が住みたくなるまち」と「医療・福祉サービスや公共交通の充実等、安心して暮らせるまち」が多く選ばれているが、60代以上では、「農林水産業や商工業等、産業の振興が図られているまち」が一定程度多く選ばれている。



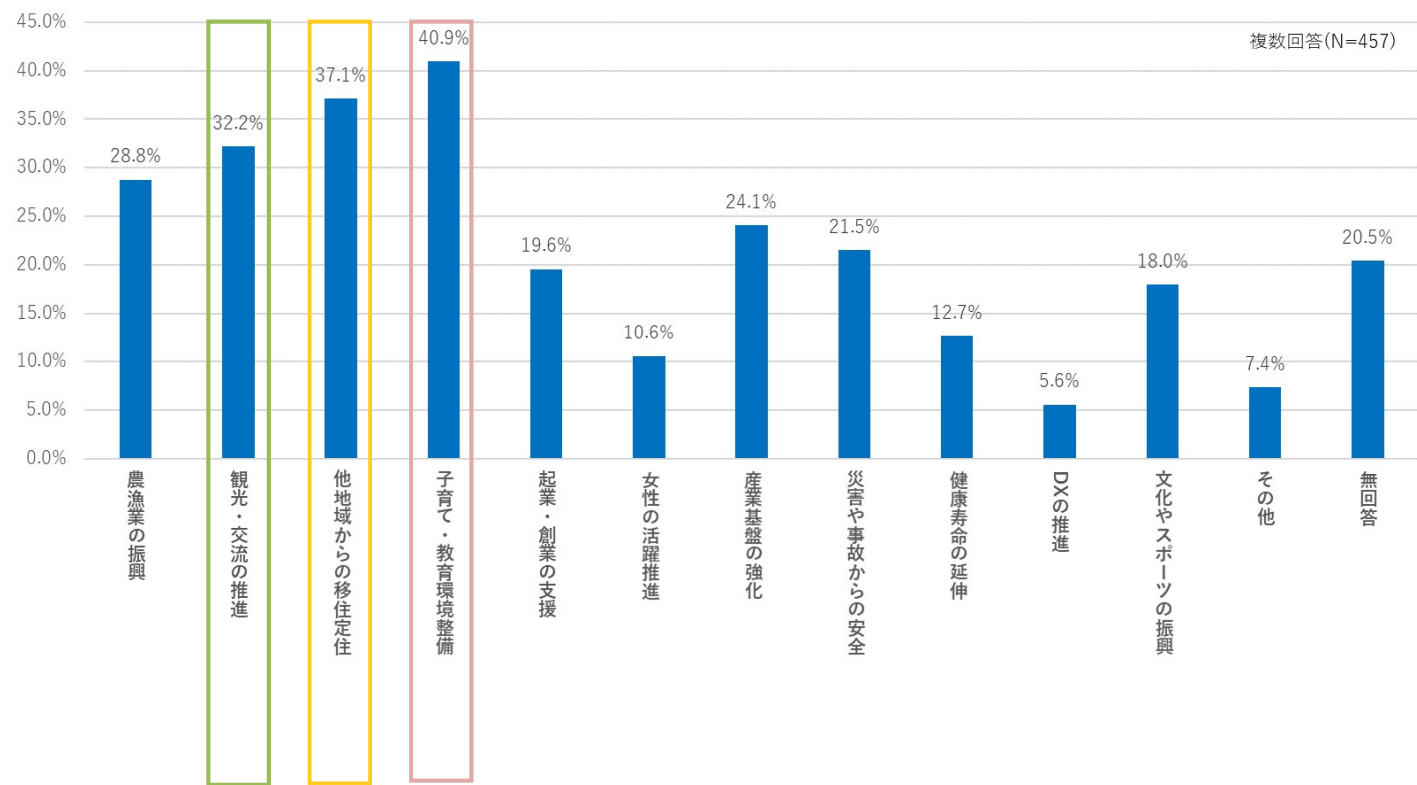
	性別			年代別							
	男性 (N=205)	女性 (N=240)	回答しない・無回答 (N=16)	18～29歳 (N=76)	30～39歳 (N=52)	40～49歳 (N=54)	50～59歳 (N=61)	60～69歳 (N=65)	70～79歳 (N=82)	80歳以上 (N=67)	無回答 (N=4)
農林水産業や商工業等、産業の振興が図られているまち	35.1%	20.8%	37.5%	19.7%	26.9%	20.4%	27.9%	30.8%	34.1%	31.3%	50.0%
観光地としての魅力が高まり、多くの来訪者を惹きつけるまち	28.3%	27.1%	18.8%	40.8%	30.8%	27.8%	32.8%	29.2%	18.3%	13.4%	25.0%
住環境や働く場が充実し、若者が住みたくなるまち	62.4%	63.8%	56.3%	63.2%	73.1%	70.4%	67.2%	63.1%	61.0%	47.8%	50.0%
消防・防災対策が充実した安心して暮らせるまち	8.8%	12.9%		10.5%	1.9%	14.8%	14.8%	12.3%	11.0%	9.0%	
「関係人口」と呼ばれる新しい人々が多く訪れ、市民との交流が図られているまち	10.2%	4.2%	18.8%	6.6%	9.6%	5.6%	9.8%	12.3%	7.3%	1.5%	
高齢者や女性、障がい者、外国人の方等、誰もが生涯にわたり活躍できるまち	14.6%	12.9%	12.5%	14.5%	5.8%	9.3%	13.1%	13.8%	19.5%	16.4%	
人権が尊重され、誰もが自分らしく生きられるまち	7.8%	12.5%	12.5%	9.2%	3.8%	13.0%	11.5%	9.2%	11.0%	14.9%	
人工知能（AI）等の最先端技術の導入により、市民の生活の利便性と満足度が向上しているまち	4.4%	2.5%	12.5%	5.3%	7.7%	9.3%	1.6%	3.1%		1.5%	
結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえられるまち	32.2%	25.8%	12.5%	39.5%	46.2%	29.6%	26.2%	26.2%	18.3%	17.9%	
医療・福祉サービスや公共交通の充実等、安心して暮らせるまち	35.1%	48.8%	43.8%	26.3%	50.0%	37.0%	44.3%	47.7%	46.3%	47.8%	50.0%
それぞれの地域コミュニティが元気で、活力あるまち	6.3%	6.3%		3.9%	1.9%	9.3%	4.9%	7.7%	6.1%	9.0%	
SDGsの理念を踏まえた取組により、持続可能なまちづくりが実現しているまち	1.0%	2.9%		2.6%	3.8%	1.9%	3.3%	1.5%		1.5%	
自治体間連携や民間との協働により、地域の課題が解決されるまち	2.0%	4.6%		1.3%	3.8%	1.9%	1.6%	4.6%	2.4%	7.5%	
津久見市の特徴的な文化が保全され、スポーツが盛んなまち	12.2%	6.7%		15.8%	1.9%	9.3%	9.8%	3.1%	12.2%	7.5%	
その他	3.4%	1.7%		1.3%	3.8%	1.9%	3.3%	1.5%	1.2%	4.5%	
無回答	4.9%	7.5%	12.5%	2.6%	1.9%	1.9%		7.7%	12.2%	14.9%	25.0%
	上位 1 位			上位 2 位			上位 3 位				

(6) 地方創生施策・人口減少対策を行うと良いと思う施策（全体）

- 将来の地域振興において力を入れるべき取組としては、「子育て・教育環境の整備」（40.9%）が最も多く、「他地域からの移住定住」（37.1%）、「産業基盤の整備・強化」（24.1%）が続いている。
- 50代以下と異なり、60代以上では、「子育て・教育環境の整備」が最も多く選ばれた項目ではなく、また「農漁業の振興」が上位を占めているとの年代間での違いがうかがえる。

施策の具体案：

- 男性 30代：佐伯市のような佐伯市内で衣食住の買い物が完結できる街が理想だが、難しいと思うので、商業施設の誘致で関係人口を増やすところから進めてはどうか
- 無回答 20代：観光はいずれ廃れる。サステナブルな産業として第一次・第二次産業に力を入れるべき。観光では維持管理にコストがかかる。



	性別			年代別							
	男性 (N=205)	女性 (N=240)	回答しない・無回答 (N=16)	18～29歳 (N=76)	30～39歳 (N=52)	40～49歳 (N=54)	50～59歳 (N=61)	60～69歳 (N=65)	70～79歳 (N=82)	80歳以上 (N=67)	無回答 (N=4)
農漁業の振興	28.3%	27.5%	18.8%	22.4%	23.1%	22.2%	26.2%	38.5%	34.1%	25.4%	
観光・交流の推進	34.6%	35.0%	25.0%	52.6%	40.4%	40.7%	39.3%	32.3%	24.4%	14.9%	25.0%
他地域からの移住定住	41.0%	35.4%	25.0%	32.9%	46.2%	38.9%	37.7%	44.6%	36.6%	29.9%	25.0%
子育て・教育環境整備	42.0%	45.4%	37.5%	53.9%	55.8%	59.3%	54.1%	43.1%	28.0%	20.9%	25.0%
起業・創業の支援	24.4%	15.0%	12.5%	13.2%	17.3%	20.4%	24.6%	23.1%	14.6%	23.9%	
女性の活躍推進	9.3%	13.3%	6.3%	11.8%	19.2%	13.0%	9.8%	15.4%	6.1%	7.5%	
産業基盤の強化	30.2%	18.8%	18.8%	22.4%	21.2%	27.8%	27.9%	27.7%	22.0%	20.9%	
災害や事故からの安全	21.0%	22.5%	12.5%	25.0%	19.2%	18.5%	23.0%	30.8%	12.2%	23.9%	
健康寿命の延伸	15.1%	10.4%		11.8%	7.7%	7.4%	14.8%	18.5%	9.8%	14.9%	
DXの推進	8.8%	3.3%	12.5%	7.9%	7.7%	9.3%	8.2%	10.8%	1.2%		
文化やスポーツの振興	23.9%	14.2%	6.3%	26.3%	19.2%	14.8%	11.5%	23.1%	18.3%	13.4%	
その他	7.8%	7.1%	12.5%	5.3%	9.6%	7.4%	8.2%	9.2%	6.1%	7.5%	25.0%
無回答	13.2%	21.3%	31.3%	6.6%	3.8%	9.3%	9.8%	16.9%	34.1%	35.8%	50.0%
	上位 1 位			上位 2 位			上位 3 位				

(7) これからの津久見市のまちづくりに対してのご意見やアイデア等（全体）

（主な意見）

○子育て・教育環境の充実

- ・ 子育て世代の実情に即した聞き取りや調査を行い、当事者の声をまちづくりに反映すべき。
- ・ 津久見高校の存在は市の“生命線”であり、高校存続・進学校化が重要との声あり（進学コース新設による魅力向上）。
- ・ 高校生活を楽しめる場が津久見市には少なく、佐伯市等への流出につながっているという意見。
- ・ ひとり親世帯や介護を担う家庭への支援策の強化を求める声。
- ・ 「子育てと仕事の両立はまだ難しい」との現状指摘も。

○産業振興・雇用創出

- ・ 若者の定住には働く場の確保が必須。企業 PR や誘致政策、賃金改善による「働きたい」と思える環境整備が必要。
- ・ 津久見市内の土地を無料貸与し、税制優遇等で大規模商業施設誘致を図るべき。
- ・ プレミアム商品券や地域通貨「つくみペイ」などを活用した地元商業の活性化施策が提案された。

○まちの魅力・観光・文化発信

- ・ 市外から人を呼び込むイベント（例：花火大会、スポーツ観戦、津久見出身アーティストのライブ等）の開催を通じてにぎわい創出を。
- ・ 津久見産品（みかん以外の手作り品）を販売する機会の創出、市民全体で津久見の魅力を発信すべき。
- ・ 新庁舎周辺に季節の花を植えるなど、街並みに「足を止めたくなる」ような景観整備を求める声。

○福祉・高齢者支援・防災

- ・ 高齢者が運転しなくても移動できる環境づくり（バス増便等）を企業と連携して整備すべき。
- ・ 災害（南海トラフ地震等）発生時に、ペット・赤ちゃん・高齢者なども安心して避難できる仕組み整備が急務。
- ・ 空き家の有効活用、防災計画の現実性の見直し、「お役所仕事」から脱却し、本音で語るまちづくりを望む意見。
- ・ 高齢化が進行する中で、安心して住み続けられるまちの実現が強く求められている。

○税制・行政運営への提言

- ・ 行政には「建前ではない本音の議論と実行」が必要との批判的意見あり。

○都市基盤・交通インフラ

- ・ 踏切が市内に 5 か所あり、津久見・青江地区に立体交差施設が必要。これがないと市の発展は難しいとの声。